

ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。



養育家庭(ほっとファミリー)
体験発表集
(平成23年度)



 **東京都福祉保健局少子社会対策部**

「養育家庭(ほっとファミリー)体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約4,000人います。このような子供たちを、実の親にかわり、家庭的な環境の下で育てているのが「里親」です。

都では、養子縁組を目的とせず、いろいろな事情で家庭で暮らすことのできない子供を一定期間養育していただく里親を「養育家庭」、又は「ほっとファミリー」という愛称で呼び、普及啓発につとめています。

そして、このような子供の状況とほっとファミリーを理解していただくため、各区市町村と協力し、養育家庭（ほっとファミリー）体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成23年度に開催された養育家庭（ほっとファミリー）体験発表会において、ほっとファミリーの方々に発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

初めて子供に出会ったときの感動、交流中の思いがけない出来事、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題やあわただしい日々の様子など、子育てに奮闘している様子が描かれています。また、真実告知や実子との関係など、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういったご苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、ほっとファミリーをやっていて良かったというものや、子供から喜びや幸せをもらっているというものなど、ほっとファミリーとして経験した子育ての素晴らしさにも触れています。より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成24年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

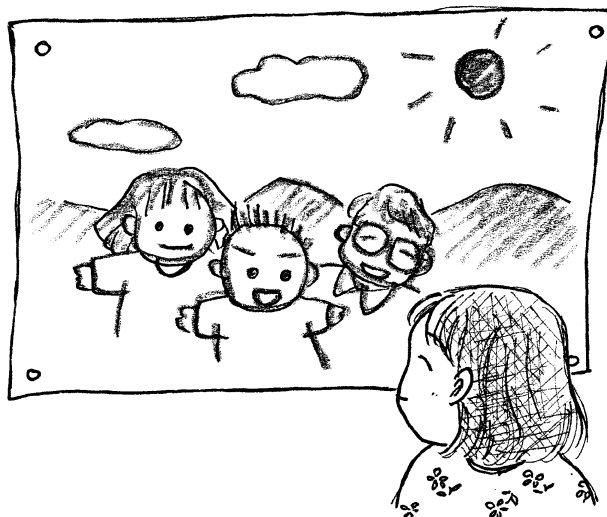
栗原 博

目 次

1	M ちゃんは我が家にとって天使	2
2	はじめての里親	4
3	短期間であってもできること	6
4	神様からの預かり物	8
5	社会を支える	10
6	私の「生きがい」君	12
7	受託当初の苦労も、懐かしく楽しい思い出に	14
8	その子の大変さに心寄せて	16
9	里子の気持ちをしっかり受け止めて	18
10	一緒に里親をやりましょう	20
11	いつでもどこでも、初めの一歩	22
12	初めて里子を迎えて	24
13	ともに育つ、泣き虫 A 君と私	26
14	泣かれても泣かれても、通い続けたことで掴んだ絆 ..	28
15	M 子の高校入学奮闘記	32
16	長い交流の後に	34
17	我が家の里子について	36
18	養育家庭で育て	38
19	問題は必ず起こるけれど、サポーターもいっぱい	40

養育家庭(ほっとファミリー)

体験発表会に、ようこそ!!



この体験発表集には、19人のほっとファミリーの方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1 Mちゃんは我が家にとって天使

【里母】

我が家では、4年前の夏に3歳8か月の女の子を委託されました。

現在、小学校2年生ですが、発達にばらつきがあり、特に言語、知識面でのおくれがあります。当初は、こちらの言っていることはある程度理解できるのですが、自分から発する言葉は殆ど理解できない状態でした。

我が家は、夫と私、実子4人。娘3人、当時一番下の息子が高校3年でした。50代後半になろうという夫婦なので、おじいちゃん、おばあちゃんとして預かろうと考えていたのですが、児相の職員の方の助言もありまして、子供にとって「お父さん」「お母さん」と呼べる存在になろうと、見た目の不自然さは棚に上げることにいたしました。

委託後、幼稚園入園までの約7か月は自主保育グループに参加し、プレイリーダーの常駐する遊び場で週に1、2回、バツタ取り、ザリガニ取り、クルミを拾ったり、工作をしたり等、野外調理や野外遊びを楽しみ、月に1回は隣接する地域センターで童歌の集いをしたりしました。

昼間、母子二人で煮詰まるとはいけないと、定例の集まり以外にも、ほぼ毎日、お弁当を持ってそこに出かけ、暑くても寒くても、天気が多少悪くても、足元がぐちゃぐちゃだったりしても、どろどろになって遊び、夕方帰ってくるとそのままお風呂へという日々でした。

そんな日々の中で少しずつ言葉が出てきて、4か月ぐらいたった暮れごろには、自分の要求を少し言葉にできるようになってきました。

幼稚園に入園してからは、親子ともども、とても楽しい2年間でした。

年長になってからは、仲のよい五人組の一人となっていたので、降園後は弟さんや妹さんも含め、子供を遊ばせながら母親仲間でお茶飲み、おしゃべりの日々でした。いまだに時々声がかかります。

Mが言葉を自由に使えないことで、遊びの中で自己主張ができないのは、親としては心配でしたが、子供の間では、娘はやさしく譲れる、反論しない、意地悪を言わない（というよりも、反論や意地悪をすることができないのです。）ということで、どこへ行っても歓迎され、よく誘われました。

「ほかの子とはすぐけんかになるけど、Mちゃんとなら、けんかにならずに遊べる。」とも言われ、複雑な思いでした。

小学校の入学に向けては、遅れがあることで入園直後から小児科を通じて心理の方に経過を見てもらっていました。その上で、市の教育相談室で言語聴覚士の方から月2回ぐらい訓練を受けてきました。

入学を控えた1月に小学校へ夫婦で行って、校長先生に発達の件と通称名を使いたいということをお伝えしました。

小学校入学後は、生活面では、困ることはあまりなかったものの、平仮名もほとんど書けない、少し読める程度での入学だったので、学習面では新しいことに会うたびに、つまづくことが多かったです。外から見れば、1、2年の遅れがある子かもしれないのですが、我が家では日々のMの進化に驚くことが多く、「すごーい。」とか「こんなことができるようになったの。」と家族みんなで褒めて、褒めて、励ましての日々です。

子供を迎えた我が家も変化しました。夫は、実子の子育ての間は夜10時前に帰ってきたことはほとんどありませんでしたが、Mちゃんが来て間もなく転職をしたこともあって、8時ごろに帰ってこられることが大分ふえました。初めて一緒に子育てをしている実感を持つことができます。また、それまで常に末っ子だった長男も初めて「お兄ちゃん」となることができました。

今回の子育てで大切と感じたことは、子供自身が愛されていると実感できること、精神的な安定が何にも替えがたいということです。また、近隣の間人関係が本当に大切だと思います。子育てに悩むことが、随分ありましたが、その度に周りの人達が心配して声をかけてくれたことや、一緒に考えてくれたこと、具体的な援助をしてくれたことなど、もう涙なしに語れないようなことがたくさんあります。Mが来たことで、さらに拡がった人間関係は、私そして家族の財産となっています。

最後に、子育ての喜び、うれしかったこととお話ししたいと思います。

昨年は、ひよんなことから、Mを連れ、夫婦で海外旅行に行きました。二人そろって海外へ行くのは新婚旅行以来でした。たまたま上の子供を送りに行った成田空港で、大画面に映されていた海外の景色を見て、Mちゃんが「あそこに行きたいな。」と言ったのがきっかけでタヒチのボラボラ島まで行ってきました。

戸籍も名字も異なる小さな子を連れての入国というのは、人権がシビアな国ではとても難しいと聞いていましたので、入念な準備をしていきました。警備の厳重なフランス大使館にも行ったり、幾つかの書類に翻訳査証を受けて、それでもどきどきしながら出かけました。

無事入国ができて、見たことのない海の色と、満天の星空に南十字星を見られたことも、この子がもたらしてくれた思いもかけない幸せでした。

この今の幸せをかみしめながら、私達は年をとっていきますが、体力、気力を養って、子供が思春期につらい思いをしていたら、その時こそ全面的に受けとめ支えてやりたいと思っております。

2 はじめての里親

【里母】

私の家には実子4年生男子Nと3人の里子がいます。里子は5歳男子Mと、姉弟で預かった4年生女子S・3年生男子Kです。

初めての里子の紹介は2歳になるMでした。比較的初日からすぐに懐いてくれましたが、ある時Mが風邪で会えない日が2週間ぐらいありました。それからMは職員さんにしがみつき強張った顔をするようになってしまい、単純なものではないと実感しました。我が家に来た初日は、固まった表情で夕飯も全く食べません。眠くてうとうとうとしていても頑として横になろうとせず、座った体勢を崩そうとしませんでした。小さいながらも何となく違った雰囲気を感じていたのでしょうか。全身で油断はしないぞと頑張っているMを見て、本当に胸が締めつけられる思いでした。抱きしめて布団に横にさせてあげると、しばらく大きな声で泣いていましたが、すぐに寝息を立て始め、Mとの暮らしの始まりを予感しました。喘息もなくなり体も丈夫になってきたと同時に、我が家になれてきて困った行動も増えてきました。マジックで車のシートに絵を書いたり、おねしょをしても何事もなかったようにぬれたパジャマを着がえて普通にしていたり、日常の些細なことで小さな嘘も言うようになってきました。その都度注意するのですが、また同じことの繰り返しです。今思えば試し行動だったと思うのですが、実際に直面すると辛いもので、精神的にストレスを感じていた時期でした。長男のNも、今まで一人っ子で育ってきたのが、いきなり2歳のMが来たので、最初はかなりストレスを感じていたようです。私たちの思いで里子を迎えながら、お兄ちゃんらしくしなさいと彼に押しつけてしまったのは、長男には重かっただろうと思います。一人っ子を2人育てているぐらいの気持ちでいてあげたらもっと良かったかなと今は思います。そんなMとの暮らしも1年ぐらい経つと徐々に落ち着いてきました。少し遅れていた言葉がたくさん出るようになって、色んなことができるようになりました。我慢強くなり、泣くことも少なくなりました。家に帰ってきてからも「今日はどういうことがあったんだよ。」と保育園の出来事を楽しそうに話してくれ、自分の好きな本を見たり玩具で遊んだり、一人の時間を持てるようになりました。

その頃、今度はS・K姉弟を預かる話が来ました。小学校卒業まで養育家庭に預けたい、週末やお休みはお父さんと交流があるとのことでした。年子の姉弟で、一時も黙っていることがなく、会話もどこか一方的でした。Kは、自分の思うようにならないと怒って大きな声で叫び、癩癩を起こして椅子を持ち上げたこともありました。「だめだよ。」と強く言うと、自分の部屋に鍵をかけて閉じこもることも何回もありました。一方で、好奇心旺盛でちょっとした事でも楽しそうに笑い、純粹で優しい部分も持っていました。そしてSが、私にとっては一番大変でした。学校ではとても勉強ができ

て授業態度も良く、模範的な優等生だったのですが、家では全く違う態度です。思ったことは何でもずけずけと口にするタイプで、主人が帰ってくると、毎日毎日「Sはこんなだった。」と話を聞いてもらい過ごしていました。この頃から、本当に里親は一人ではできない、皆の力を借りなければ無理なのだと思います。里親の会にも少しづつ顔を出すようにし、先輩里親さんのお話を聞いて励まされたり、勇気づけられました。大人が真剣に彼女に対して向き合っていることで、例えそれが怒るということであっても、Sは嬉しく思ってくれたようです。Sはそういう素直な一面もあるのだと、この頃からSやKのことを可愛いと思うようになり、気持ちの余裕も生まれてきました。SとKは親との交流が密にあって、平日は私の家で、週末は親のもとで過ごすというのが大体の形です。これは子供達にとっては、実の親と毎週会えるので嬉しいことです。しかし、反面、大変なこともありました。月曜日から金曜日までいて、ようやく落ち着いてきたなと思うと、週末で家に帰って月曜日来る頃にはまた元通り…色々な約束事が定着しません。子供たちも、実家と私たちの家とで気持ちが大きく揺れ動き、情緒も不安定でした。

長男Nも、SとKを迎えて、Mを迎えた時以上に大変そうでした。Sとは同学年でしたので、Sは何かとNと自分を比較していました。寝る時には、Nと布団に入って抱きしめてたくさん話をしました。救われたのは、Nがどんな時も「里親をやめて。」とは言わなかったことです。「一緒にいて嫌な時もあるけど、楽しい時もあるから里親は続けて欲しいな。」と言ってくれました。けれども、それは今思うと、たぶん彼の本心ではなかったと思います。親の思いを感じて無理してくれていたのかなとも感じています。大変だったと言えば、里子のMもそうでした。新たに2人の姉弟が来たことで最初はとても戸惑っていました。もともと甘えん坊だったMは更にそれが強くなって、今までしなかったおねしょをしたり、自分でできていた食事や着がえも「お母さん、やって。」と、赤ちゃん返りが始まったりしました。一方、お兄ちゃんのNに対してSやKがちょっかいを出すと、かわりに「バカ。」と言ってキックしたり、Mなりにお兄ちゃんを守るといような姿も見られたりしていました。一時は兄弟対姉弟みたいな感じで火花が散るような時期もありました。ただ、一緒に過ごす時間が長くなっていくうちに、仲間意識というものが生まれてきて、徐々に4人でいることが自然な空気になってきました。

来月でSとKを迎えて1年がたとうとしています。この間はSが「〇〇さんが里親やっていて良かったな、ありがとうね。」と言ってくれて、思いがけない言葉に涙が出そうでした。里子たちがいずれ自立して旅立つ時に、この家に縁があって良かったなと思ってもらえるように、これからも子供たちと月日を重ねていこうと思っています。

3 短期間であってもできること

【里母】

今回、お話しする機会をいただきまして、ありがとうございます。昨年からはじめて、まだ短期の2回の経験しかありません。はじめたきっかけや、2回の、ほんの少しの経験のお話をさせていただきます。よろしく願いいたします。

私はNPOで環境保全の活動を10年ほど続けております。このことが推薦をいただいた理由のようすけれども、社会福祉協議会の評議員になり、社会福祉協議会に参加するようになりまして、福祉や障害者問題に関わるようになりました。夫婦二人で暮らしておりますので、何かこの二人暮らしであるということを活かして地域へ貢献できるようなことはないかと考えているところへ、新聞で養育家庭のことを知りました。私はNPOでの活動が忙しく、夫も仕事に追われ出張も多くて、すぐには養育家庭へ登録するということができませんでした。数年たって夫の勤務時間が定まったことで、「今しかないな、これは。」という気持ちになって行動しました。そして研修を受けたり、実習へ参加させていただいたりして、養育家庭の体験をさせていただくことになりました。

そんな経緯から始まり、今年の3月に二人の男の子を短期でお預かりしました。10歳と7歳の男の子の兄弟で、兄弟のきずながとても深くて、支え合っているような関係でした。何をすることも一緒に、ご飯を食べるとき以外は、一つの椅子にお兄ちゃんが座っていると弟もそこへ行き、半分自分も腰をかけて、小さい椅子に二人で座って。やっぱり兄さんにどこか触れていると安心するというか、そばにいないと不安だということだったと思います。

短期間であっても、一緒に暮らすためには二人の子供を知ることから始めようと夫と話し合いました。相手を知ること、共有する時間を持つことだということで、遊び、それからお話ですね。テレビを見ても、子供たちの話題に関心を示しまして、距離を縮めるように努めました。

時間も1日1日と過ぎていきますと、子供たちはそれぞれ個性を見せてくれるようになりました。特に弟君のほうは、翌日から大いに個性を發揮しました。よその家ではどこまで進入していいのか、悪いのか、そういうことがまだわからないようでした。最初は気がつかないのですが、ズボンのポケットに今まではなかったのに10円玉が何枚、5円玉が何枚と、入っているのに気づいたので、注意をして見ているようにしたんですね。そうしましたら家中の引き出しを全部開けて、何が入っているのかというのを確かめて回るんですね。そういうことをやっているということで、見つけたから叱るということではなくて、無断で何をしてもいいのか、悪いのか、そういうことをお兄ちゃんと私たち夫婦と四人で、子供向けの話し方で

お話をしました。そうしましたら、「黙ってよその家の物とか人の物をとったり、自分のかばんに入れたりしたら泥棒したっていうことなんだよ。そういうことじゃ小学校に行けないよ。」みたいなことをお兄ちゃんのほうが弟に言いました。弟をお兄さんがたしなめたということでしょうか。このことから、弟君は我が家に来たときより、少し肩の力を抜いて私たち夫婦に向き合うようになりました。それまでは何かちょっと構えていたと言いますか、「このおじさん、お婆さんは、どうやって自分に接するのかな。」ということを試したのかな、自分に向かい合っほしいという思いもあったのかなと思いました。

夫が休みの日は、子供たちとバスに乗って遠くまで遊びに出たり、弁当を持っていったりしました。帰ってくると子供たち二人が先を争うようにして、私におみやげ話を聞かせるんですね。きらきらした目を輝かせて「初めて見たよ。」とか「面白かったよ。」なんていうことを報告してくれるんです。今までとちょっと違う表情を見せてくれました。家に初めて来たときから比べると、本当に2、3日のことではあるんですけども、変わっていつてくれるということ、とても嬉しく思いました。弟君の小学校の入学前に15日間のお泊まりで、自宅のほうへ戻っていきましました。今でも本当にあのときと同じように兄弟支えあって、一緒に暮らしているのではないかと、ときどき思い出しています。

2回目もやはり短期で、16歳の女の子をお迎えしました。昨年迎えた男の兄弟と、今回迎えた16歳の女の子も外国籍の子供さんたちでした。

彼女も日本に来てまだ長くないと聞きましたけれど、中学に通うことで言葉の上達も早くて、上手な日本語を話しておりました。彼女は母親の事情で私のところにお泊まりに来たんですけども、翌日にはもう「聞いて、聞いて。」みたいな感じで、英語まじりで身の上話が始まりました。日本に来る事情は、母親を通してこういう事情だったとか、そういうことを一生懸命私に訴えて、私に聞いてほしいということで話してくれました。こんなとき、本当に言葉のかけ方が選べなくて、ちょっと切ない思いをいたしました。3日目には母親と話し合いがあるということで帰っていかれました。

最初の男の子たちは15日、16歳の女の子は3日目にはもう帰りましたので、本当に1か月にも満たない経験しかしていないのですが、本当にいろんなことを感じさせてもらったり、教えられたりしました。

経験が少なくて、お話しした内容も本当に乏しくて申しわけありません。これからもいろいろな経験を積んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

4 神様からの預かり物

【里母】

現在、実子の娘2人と里子の男の子1人の3人の子育てをしています。「自分の実子がいるのに何でもう1人里子を？」と聞かれることが多いので、始めにその事についてお話ししたいと思います。

結婚してなかなか子供に恵まれなかったため、不妊治療を色々しましたが、その時夫婦でたどり着いた結論が、養子縁組をしようということでした。その準備をしている時に子供を授かり、その後2人目もできましたが、もっと子育てしたいねということで、再度養子縁組にしようか養育家庭にしようか、色々調べ始めました。その結果、養育家庭ならば色々な形でのサポートが得られ、それは親にとっても子供にとっても良い環境なんじゃないかと思い、養育家庭の研修を受けることにしました。

娘達にも、「神様が下さるって言ったら、ママのお腹から産まれてこない子供が、我が家にやってくるかもしれないよ。」と言い続けて育ててきたので、2歳の彼が来ることになった時には、娘達は大喜びでした。彼が初めて我が家に来た時は、本当にいつもニコニコした子で、我が家に天使ちゃんが舞い降りたんじゃないかと思うぐらいでした。彼が今までいたところでは、大人のことを「先生」と呼んでいたようで、最初は私達のことでもずっと「先生」と呼んでいました。町中で誰に会っても、「先生、先生。」とすごく明るく話しかけ、人見知りは全くしませんでした。2、3週間経って、私達のことをパパ、ママと呼ぶようになってくると、今度は人見知りが激しくなってきました。現在では、初めて会った人には挨拶できなくなりました。多分こちらが彼の元々の性格だったと思いますが、今は楽しくビシバシと子育てしています。

我が家に来た彼は、実母がもう一度子育てできる環境になったらお返しする可能性もあるということで、今のところは6歳までという期間で預かっています。これについてはすごく葛藤がありましたが、あまり先のことは心配しないということと、里母と実母がいて、2人ともあなたのことを愛しているから、一緒に関わって育てていきたいんだよ、と年齢に合わせてきちんと教えていってあげる必要があると思っています。実母も命をかけて彼を産んでいるわけですから、実母なりの精いっぱい愛情で彼を里子に出したんだよ、ということを伝えていきたいと思っています。今は、実母が同じ女性として幸せになって、きちんと彼を育てられる状況になって欲しいと思う反面、勝手な願いですが、彼のために、大人になるまで私たちのところで育ててほしいと言ってくれるといいなとも思います。でもそれは児童相談所が決めてくださることだと思うので、今はできることをやっていこうと思っています。

私は、もともと子供は神様から預かっているものだというふうに感じています。親の所有物ではなく、世界中に色々な人間がいるように、子供だって一人一人違うと

思っています。

ところが里子を預かると、その子に何か「あれ？」と思うようなことがあった時、どうしても、この子が里子だからこんな風なのだろうか、すぐに分析したくなってしまいます。自分の子供だったら、夫婦で、育て方だ遺伝だと、責任のなすり合いになってしまうので、どこかでやめると思うのですが、里子だと、自分以外のどこかに責任を押しつけたくなるような欲求が出てくることがありました。今は夫婦で話し合っ、彼が我が家では受け入れられない行動をとったとしたら、それは、全部彼が生まれ持った個性だと思って育てていこうと決めました。そう決めてからはすごく心が楽になりました。みんな神様から預かった子供だから、それぞれの個性を活かせる知恵を周りからもらって、子育てしていこうと思えるようになりました。

ただ、私達も人間なので、足りないところも沢山あります。足りないところは隠してしまいたくなるのですが、里親としては、やっぱりそこのところと向き合うことが一番大切だと思います。今は、自分が親として足りない部分をしっかり自覚する強さが欲しいなと思っています。今、彼にとって何が必要で、どうしたら良いか、友人達にも指摘してねとお願いしてあります。

これから大変だなと思うことは、娘達に、彼がいつかなくなるかもしれないという事実を、どう伝えていくか、そして、娘達がどう受けとめていけるかということです。現時点では実母がどうなるかわからないところもあるので、そこら辺の不安定さを自分達がどういうふうに克服していけるかということも、大きな課題だと思います。

彼には、自分が里子であるということがわかって、お友達に知られても、そのことにプライドを持ち、「自分は頑張っているんだ」「実親から生まれて育てられた子供では経験できないような色々な経験をし、沢山の人達に支えられて生きてきたんだ」ということを感謝できるように、幸せをかみしめて育ててもらいたいなと願っています。友人達も、知り合いも巻き込んで、私の周りだけでもそんな環境を作っていけたらいいなと思っています。

里親になるということは、自分の子供を育てるのとは違います。けれどもそれはとてもエキサイティングで、他の人にできない経験ができる、良い機会だと思います。一度きりの自分の人生を振り返った時に、大変な思いもしたけど里親をやってよかったと言えるように、今は、「頑張る」ということを楽しんでいきたいと思っています。



5 社会を支える

【里母】

本日お話ししようと思っておりますのは、里子の行動傾向について、これはあくまで一つの事例ですから、ケーススタディのような形でお聞きいただければと思っております。

子供のいない私ども夫婦は、子供を特に望んでいたというわけではなく、特に私の方は一生子供は持たないだろうとずっと思っておりまして、夫のほうも自分の子供が欲しいとあまり言ったことがありませんでした。しかし自分が通算で十数年アフリカにかかわり、研究したりしていきまして、欧米では一般的なのですが、いわゆる欧米人、白人の夫婦が黒人の子供を連れている姿をよく見かけたので、私は「絶対にこれをやりたい。」と強く思っていました。国際的に縁組を取り扱う機関に相談したのですが、そういったケースはほとんどありませんと言われて、児童相談所の里親制度を紹介されたのでした。

そして養育家庭として登録をすることになり、研修も受講して、登録後は比較的すぐにお子さんの紹介がありました。この里子が、3歳8～9か月でうちに来たのですが、現在7歳、小学校1年生になりました。今日の話の主人公の男の子です。

施設での交流はわりとスムーズにいき、その次の段階である1泊外泊の時のことです。うちに来た時には不安ながらも落ち着いていたのですが、お泊りしましょうと言うともう心配で、「帰る。」と泣く、それをあやしながらの2日間でした。私の母は長く児童保育の仕事をしておりまして、頼りに思って里祖父母宅に連れて行っただけですが、非常に怖がって一軒家に入ることができませんでした。玄関に入ろうとするとイナバウアーのようにそっくり返って、異様な大声で泣いて訴えるのです。今思えばなんていうこともないのですけれど、その最中には体力を消耗するし、どんどんくたびれてしまいます。試し行動としては、床じゅうに米をばら撒くとか、スーパーでかごに入れた商品を床にばら撒くとか、映画館などで大画面と大音量に驚く、などがありました。多動傾向は今でもありますが、いつも落ち着かずに動いている、声のトーンがちょっと高いのも特徴かなと思っています。彼と初めて会った時から、サバンナにいる草食動物の群れ、シマウマとかガゼルとか、それを狙うライオンとかチーターとかの肉食動物に逃げ遅れて真っ先に食べられちゃう子供というような印象でした。小学校での体力測定の結果を見てこのことを改めて納得しています。

こんな里子を迎えて、その時に私たちがやったのは、銭湯や温泉によく行くということでした。うちの近所には天然温泉なども含めて銭湯がたくさんあります。最初は怖がるのですが、裸のおばちゃんたちが「今の子供は家庭のお風呂以外に入ったことがあまりないので、温泉を怖がるのは当たり前よ。」と言ってくれました。私のリ

ラックス効果も兼ねていましたが、乳頭温泉など、旅館に泊まることもありました。最初は怖がって部屋にも入れなくて、だんなさんに外であやしてもらったりしていました。

そんな中で、ひとつエピソードがありました。私が家を空けなければならぬことがあり、他の養育家庭に預けた時のことです。彼はその1か月足らずの間に、里親さんに隠れて家中におしっこをかけていたのです。私の家ではそういうことはなかったのですが、そのお宅では、洋服ダンス、米びつ、ラグの上、などあらゆるところにおしっこをかけてしまい、その里親さんはとてもお疲れになった、と。その里親さんのケアをしてくださったのは、里親会でした。里親さんのお話を聞いて下さったり、クリーニングの相談に応じていただいたり、里親同士のつながりがとても必要なんだと実感しました。今、思い返してみるに、やはりあれは彼が新しい関係を確立するために必要だった通過儀礼だったのではないか、と思います。

我が家では、とにかく真実告知はしつこいくらいにしています。わかろうがわからなかろうが、くどくど言っていたので最近では理解できているようです。夫が外国籍の我が家では、苗字がばらばら、3つの名前を使い分けているので、それでうまく回っているということがあります。

里子を迎えてみて、養育家庭の意義はなんだろうと改めて考えます。さきほどのビデオのとおり、社会的養護が必要な子供のための制度、ということなのでしょう。けれども、私は今とても危機感を持っています。カースト制度でなくても、社会の中では、どうしても下の層、底辺が現れてきてしまう。それが彼でなくても、誰かがそうになってしまう。日本のような成熟した社会で、どこまでそういった子供たちをこぼさずに引き上げていくか、ということが、私が養育家庭をやっている意義だと感じています。この先に彼らが生活保護を受けることになり社会全体が崩れてしまうのではないかという危機感がすごくあります。もちろん、そういうことではなくて、養育家庭をなさっている方はいっぱいあって、それぞれの考え方や目的があると思います。でも、私にとって、自分を一番支えているのはこのことではないか、と思うわけです。

以前、今日のような体験発表会で、「既に里親になっている大学教授のご夫婦に里親になろうと相談したら、あなたにはできないでしょうと言われた。」と聞いたことが印象に残っています。私も里子が巣立った時に振り返ってみて、「私には何もできなかった。」と思うかもしれません。ですが私は、養育家庭の意義とは「みんなで社会を支える」ことだと思います。つらいことがあっても、そういったことを支えに長く続けていけば、それが社会にとってすごくいいことではないかと思っています。ご清聴ありがとうございました。

6 私の「生きがい」君

【里母】

里親になろうと思ったのは、子供が好きだったことと、2人の実子（現在23歳と20歳）がすでに私を相手にしてくれず、生きがいを喪失してしまったからです。子供にかかわる何かをやりたくてしようがなくなって、近くの児童養護施設に相談したら、「学習ボランティアをお願いします。」と言われ、まず中学校3年生の女の子を紹介されました。

高校に入るための勉強ということで、一年間付き合いました。結局、高校に入ってお父さんと暮らすことになりました。母と引き裂かれたときの思いを話してくれたりして、子供は、こんなに恵まれた養護施設の中にも、心は本当に傷ついて生活しているのだと思いました。

2人目は小学校5年生の男の子で、全然落ちつきがないのです。お母さんが病気で外泊できないので、職員から「ぜひフレンドホームに。」と言われ、登録し、遊園地や映画に連れて行っていました。勉強は、私が一生懸命教えても「やだ。」と言ってやらないのです。それでも中2まで、手を変え品を変え、勉強をみに、毎週児童養護施設に通っていました。

里親登録も、私は母子家庭なので、母に補助者を頼んで登録をしました。1年半も過ぎ、もう話はないかなーと思っていたところ、児童相談所から電話があり「2歳半の男の子、どうですか。」と聞かれ、もちろん受託を決めました。「知的な障害があります。」と言われたのに、その時は有頂天で引き受けました。障害者授産施設で働いていたものですから、そういう子が人なつっこくて、かわいいことを知っていたからです。

乳児院での交流の際に、子供たちが「もしかしたら、僕のお母さん？」みたいな顔をして見るのです。先生から突然、「今日から、お母さんと呼んでいいですね。」と言われ、いいのかな？と思う間もなく、その後ほかの子たちも「Y君のお母さんだ。」と認識し始めました。私がほかの子の靴を履かせようとすると、Yが怒るのです。そういうことで、自分のものと理解したのかなと思ったのですが、なかなか慣れず、3回目か4回目の交流でやっと手をつなぐことが出来ました。

働いていたものですから、すぐに保育園の申し込みをしたところ、入れることになり、3歳少し前に委託が決まりました。Yもどこかに連れて行かれるらしいとわかったようでした。お赤飯を作って、近所に本人と一緒にごあいさつに行きました。Yは朝起きて自分が違うところにいることがわかると、もう寝たまま涙をぼろぼろこぼして、何も言わないで、ただ泣いていました。ただ、新しい生活にもすぐに馴れて、電池で動くぬいぐるみを見ると大喜びし、自動販売機を知らなくて、缶が落ちて来る

と、びっくり仰天でおもしろくて何回もやりました。Yは、虫がいるのを見つけると「ひえー。」と近所中に響く声で逃げ回っていました。エレベーターが大好きだったので、何回も一緒になって乗りました。風船が好きだったので、たくさん天井からつるして3歳の誕生日会をしました。パン屋さんに行って、「どれかパンを買う？」とYに聞いても、自分で買った経験がないので選べない、そんな感じでした。

うちに来たときは、靴でうちに上がろうとしました。また、乳児院は部屋しかないので「Y君のお部屋に帰る。」という言葉しか出ませんでした。何回も「Y君のおうちだよ。」と説明しました。表札には本人の名字をそのままにして、並べて貼ってあります。

2カ月ぐらいは、「お母さん。」とかわいく呼んでくれました。「Yたん。」と、本当にべたべた状態。逆にうちの母には「ママちゃん、嫌い。」と言って、寄せつけませんでした。

いちごが好きで、1パック食べてしまうのです。買わないと、スーパーで寝転がって怒っていたりして、毎日のようにいちごを買っていました。

また、成長を一緒に喜んでもらう人に会わせたくて何回も乳児院に行きました。プレゼントまで用意してくれて、皆、抱いてくれるのです。そうするとYは鼻の下を長くして照れて、そのうち目から涙が流れ出ます。それを全部写真に撮っておきました。それは、Yがずっと愛されてきたのだという証だからです。乳児院にはお母さんが1年ごとに3人いて、私は4人目になりました。

うちの家族への影響は、まず長男については、今23歳で特別養護老人ホームに勤めているのですけれども、夜勤などもありあまり構ってくれないので、お父さんっぽい感じです。Yが目の前のもを食べないで、「あれ食べたい、これ食べたい。」と言っていると、「目の前のもを食べろ。」と結構強く言われます。二男は、受託したとき高校3年で、勉強嫌いで進路に迷っていました。そうしたらYの面倒をよく見てくれたのです。おんぶしたり、だっこしたり、高い高いをしたり。おかげで保育士の学校に進学し、今、保育士の学校の2年目です。母も今はYにすごく好かれて、水族館やら遊園地やら、いつも同行しています。私は保育園でなじむように、お母さんたちと、必死になってメールでやりとりしています。子供同士仲がいいので、私も親しくでき、いっしょにスイミングに通い、私の世界も広がっております。

私は、来たときからYを「生きがいくん」と思っています。これからもいろいろあるとは思いますが、何か問題が起こったらそこで全身で勉強して取り組んで、できるかぎりのことをしていこうと思っております。ありがとうございました。

7 受託当初の苦労も、懐かしく楽しい思い出に

【里母】

私が里親を始めるきっかけは長年勤めた会社を8年前に退職したことです。退職後会社を設立、経営も順調で、好きな車を買って、自分で設計して自宅を建てるという長年の夢も果たしました。最後に残ったのが、いつも心の片隅にあった子供という存在です。小さい頃から子供が好きで大学では心理学を学び、幼児教育にも興味があったので、社会貢献といった大上段に構えるのではなく、ごく自然に子供と生活してみようと思いました。

Sちゃんと初めて会ったのは2年前の春、2歳半の時でした。交流は乳児院が遠かったということもあり、夫婦そろって土日に通いました。敷地内での交流から外出になりSちゃんはバスや電車が大好きなので3人で動物園、菖蒲園、ショッピングモール、鉄道公園などに行きました。ちょっと歩くとすぐ「だっこ」という感じで万歳をしていた姿が、かわいい思い出です。3か月後ぐらいたったある日、乳児院の階段にSちゃんが座って動かなくなったことがありました。呼んでも全然反応しないで、じっと私のほうを見ています。ちょっと困ったなと思いながら、仕方がないので今日は帰ろうかと思い、上にいた主人を「もう降りて。」と呼びました。すると真ん中でじっと見ていたSちゃんが慌てて降りてきて急いで靴を履きました。その時に、ああ、そうか、Sちゃんに対してちょっとおっかなびっくりで接していて、自然に接することができていなかったんだと感じました。このことがきっかけで、もっと自然体でSちゃんと過ごしていこうと思ったのです。

夏ごろからは外泊となり、夜もぐっすり寝て、夜泣きなどもなくスムーズに我が家での生活が始まりました。受託3日目が3歳の誕生日でした。平日だったので2人でデパートへ行き、買い物をしたり、屋上でパンダや魔法のじゅうたんの乗り物を一緒に楽しみました。子供服売り場では、道化師のおじさんとじゃんけんをしてハロウィンのお菓子をもらい、ケーキも買って帰りました。駅からは、2人で手をつないで歩いて帰りました。15分ぐらい、一生懸命歩いていたのを今でもよく覚えています。

でも、受託したばかりの頃は24時間Sちゃんと向き合う毎日で心の休まる暇もなく本当に大変でした。急激な環境の変化に大人も子供もへとへとになります。でも子供も大人も幸せになりたいという気持ちは同じです。大人の期待にこたえようと子供は子供なりに、大人以上に頑張っていました。新築の我が家に紙パンツで登場したSちゃん、家中悪臭が漂う毎日でしたが、1か月足らずで紙パンツを取ることができました。また、お話ができなかったSちゃんは、泣いて、わめいて、自分の要求を通そうと試み、時には1枚1枚洋服を脱ぎ出してベランダに出て叫んだこともありました。「防音装置ありますか。」って乳児院で委託のときに言われたのですが、ああ、このこ

とだったのかと、そのとき思いました。でも、しばらくして児童相談所の家庭訪問があり、心理司さんが「半年前と、別人のようじゃない!」「お話もできるんだ。」「え、あのときのSちゃんだよね。」とおっしゃると、Sちゃんが恥ずかしそうにニコッと笑ったんです。その時、ああ、我が家に来てSちゃんはすごく変わったんだな、他人が見てもとてもびっくりするほど変わったんだなと思いました。

委託の翌年春からは保育園に入りました。友達もたくさんできて、毎日元気に通っています。スポーツが得意で、担任の先生からも、鉄棒や大縄跳びがとても上手だという、うれしい話も聞きます。運動会でも、Sちゃんよりも大きい子と一緒に走って、何と一等でゴールすることもできました。家では文字や数字の勉強をしたり、童謡をたくさん歌ったり、お絵かきをしたりしています。ちょっと泣き虫なところは、まだ変わっていません。

里親を言い出したのは私ですが、研修・施設実習後、私以上にやる気になったのが主人です。Sちゃん委託も主人の強い希望がありました。ただし、平日はなかなか子育てができないので95%ぐらいは私が担当しているという感じです。でも、土日は極力、接してもらっています。一緒に子育てをしているという実感は安心感にもつながるし、何より家族のきずなが深まると思います。運動会の前には3人で公園に出かけ、大縄跳びの練習をしました。Sちゃんのリクエストに主人も頑張って何とか20回続けて跳んでお父さんの面目を保ち、Sちゃんも大喜びでキャッキャと飛び跳ねていました。

先月の5歳の誕生日には、歌の歌詞に「ママの～♪」と私の誕生日を入れて祝ってくれました。保育園での好きな遊びは「おままごとのお母さん役」です。優しく思いやりにあふれたお母さんになってほしいと思っています。

ときには里子と対峙することがあるかもしれませんが、でも、時がたつとそれはとても懐かしく楽しい思い出になります。そんな幸せな瞬間が必ず訪れることを今日皆さんに知っていただけると、とてもうれしいです。また、研修で同じ志や受託への希望、不安を語り合った里親の友人と、受託当初はよくメールで意見の交換をし支えられました。里親同士の交流は心のよりどころであり、大切な財産になると思います。



8 その子の大変さに心寄せて

【里父】

我が家が里親申請をしたのは3人の子供が結婚し家を出て、いわゆる子育てが終わり、定年後の非常勤の仕事も終えてからでした。

僕は一抹の不安があったのですが、児相の方が「いつでも困ったらとにかく言ってください。どんなことでもいいから。私たちが最終的には責任を持つので、できなくなったら言ってください。」というようなことを言われました。バックアップがちゃんとできている制度の中でやるということがわかったので、そこは安心しました。受けた以上は、何が何でもやらなくちゃいけないと僕は思っていたので、ちょっと大変かなという感じがあったのですが、そういうお言葉をいただいて、ちょっと安心して、受けたわけです。

初めて受けたお子さんは、小学校5年生の女の子でした。その子は、多摩市に住んでいる子でした。恐らく、多摩市から通えるところを探していたんでしょうけど、施設も受け入れる家庭もなくて、登録したばかりの府中市にある我が家に来ることになったのです。

実際に里父として大変だったことは、ありませんでした。というのは、そのお子さんの家庭環境というのが父親が休職中、母親が入院するということで、中学生のお姉さんと本人では生活ができないし、親戚の方も近くにいらっしやらなかったんですね。それで、足立にある児童養護施設に入ったんです。そうすると、何が困るかという、まさか足立から多摩の学校まで通うことはあり得ないわけですよ。ですから、学校に通えなかったわけです。そうした状況だったので、多摩児相の方は、一日も早く学校に行けるようにということで養育家庭を探していたのだと思います。

僕の自宅からその学校までは、電車で2駅乗って、それからバスで通うということでした。ごく普通の家庭に育ったお子さんなので、僕の家族は特別困ることはなかったのですが、恐らく、本人はすごく困ったと思います。1か月前まで自分の家にいた子が、児童養護施設に入って、その次に全く知らない家庭に、しかも、話し相手もおじさんとおばさんしかいないという家庭にぽこっと来たわけですから。見るテレビの番組といっても大人が見る番組なんか子供にはおもしろくないわけですから、僕らも子供に合わせてテレビを見たりしたんです。そういうことをしていても、やはり全く知らないところに1人でぽこっと行くのは、非常に大変だったと思います。

2か月後にお母さんが退院されたので、本人は自宅に戻りました。私たちも「元気でね。」と別れたんですけれども、また12月に、同じ子を母親が再入院したので何とかお願いできないかという話があって、次の日からまたこの子を3月まで受けることになったのです。

4月1日からはお姉さんと一緒に施設に入れたので、現在はそこから学校に通っていますが、うちにいた時に大変だったのは本人です。それを感じたのは、朝起きたときも、食事をするときも眠そうにしていた時です。「どうしたの?」と聞くと「眠れなかった。」と言うんです。やっぱり誰だって、5年生の子が1人でよその家に、ずっと寝泊まりするというのは大変なことだと思うのです。ですから、私たちが気をつけたことは、学校に1か月間行っていなかったなので、勉強が遅れているのは仕方がない、勉強がどうこうというよりも、本人が安心して生活できる場所を提供するという事だけを心がけて過ごしてきたというふうに思います。それでも、体に異変といいますか、それまではなかったというんですけれども、ちょっと傷がついたりすると、その傷口がなかなか治らなかったり、蚊に食われた後なんかも腫れたりするというようなことがあったんですね。恐らく、抵抗力とか、免疫力とか、そういったものが低下してきたのかなというふうに思いました。

ですから、私たちがしたことというのは、とにかく健康で安心して寝泊まりができればいいというようなことだけでした。その点では問題なかったのですが、本人は、つらい思いをさせていただろうなというふうに思っています。

それと、非常に大きな問題が3月11日の震災の日に起こりました。その日は、僕も帰りがすごく遅くなったんですけれども、家に帰ってみると、その子がまだ帰ってきておらず、電話でも連絡がつかないということでした。これがもし彼女が住んでいる多摩市の近くにこういう養育家庭があれば、歩いて帰れたわけですよ。ところが、距離がそんなに遠くないといっても道順も全然わからないし、学校のほうも1人で帰すわけにはいかないので、結局は担任の先生のご家庭に一晩泊まったんです。この震災を機に考えたことは、もっとたくさんの方が、それこそ学区に1人ぐらいつつ養育家庭があればなということです。やはり隣近所の人とかが助け合うような、そういった地域や家庭をたくさん増やしていけば、非常災害の時も、問題は起こらなかったんじゃないかと思っています。

あの震災後、両親を亡くした子がいろんな家庭に引き取られているのを映像で見ると、家族がばらばらになってしまうケースもあるわけですが、そんな遠くまで行かず、住みなれた場所で引き続き生活できるように、受け入れられる条件がある家庭はもっと多くの子供を受けていったほうがいいんじゃないかなと思いました。



9 里子の気持ちをしっかり受け止めて

【里母】

私は、結婚前に6年間、児童養護施設で働いていました。施設から自立しなくてはならない子供達は、何かあった時に帰る場所、何があっても確実に安心できる居場所、心のよりどころがありません。里親は里子にとってそんな大切な居場所になるのではないかと考えています。

Sは4歳で我が家に来て1年7か月になります。Sはウルトラマンが大好きな子で、委託時からとても元気で、ひょうきんで、側転をくるくるやってしまうような子です。一方で、初めて会う人には氷のように固まって、なれるまですごく時間がかかり、幼稚園で皆の前で歌を歌うなんてとんでもないという感じのタイプの子でした。今では幼稚園で自分の嬉しかったことを友達に伝えたり、皆の前で発表できたりします。また、ご近所のおばさんたちにも声をかけて、ずっとお話を聞いてもらったりしています。

我が家は、夫と、中3の男の子と小6の女の子がいて、その下に里子の年長の男の子Sの5人家族です。家へ来た当初は、私でないにだめということがたくさんありましたが、娘とは早くから打ち解けていました。今でも容赦なく喧嘩し、仲直りし、一番仲良しなのは娘かなと思っています。私がちょっと出かけて夫と2人だけにすると、お母さんと一緒に行きたかったと泣き出し、夫は「おれは役に立たない…」と悩んだ時期もありました。しかし、この夏、夫とSは2人で、雑木林に、野生のカブトムシやクワガタを捕まえに行きました。このことで夫の株はぐぐっと上がり、お父さんと一緒にお風呂に入るとか、2人だけで出かけるのも大好きになりました。中3の息子は、小さい子に自分から声をかけて遊ぶようなタイプではないので、最初から一歩引いていましたが、黙ってよく見守っています。Sがちょっとおかしいことをすると、ほほ笑みながら見えています。

委託されて半年後ぐらいに、突然、「Sね、〇〇さん（里親）が（施設に）来るのをずっと待っていたんだよ、迎えに来るの遅かったよ。」と言われました。私も、「そうだね、ごめんね、遅くなって。」と言いました。Sの抱えている問題は決して軽いものではなくて、それを感じない日はないのです。委託される時に児相から言われたのは、寝ている間に頭を枕に打ちつけるようにしますということでした。Sは2階で寝ているので、1階にいる私たちにわかるぐらいの強さで、本当にかんかんやっていました。今はなくなりましたが、そのかわりに、怒りを抑え切れずに自分を叩いたり、私たちに攻撃して来たり、癩癩がなかなかおさまらなかつたりします。「Sは何ですぐ怒っちゃうんだろう？」と聞いたら、「Sはお腹の中に怒るのがいっぱいあるんだよ。」と言っていました。そう言われて、ああ確かに、それは怒ることはいっぱいあるのだら

うなと思いました。

委託当初、近所のお子さんから、「S君、どこから来たの。」と言われて、「お母さん（里母）。お母さんのお腹から産まれてきたんだよ。」とっていました。その度に、「そうだったら嬉しいけれども、Sを産んでくれたお母さんは他にいるんだよね。」と話しました。3か月ぐらいで、やっと私が産んでいないことを、私と共有できるようになり、「じゃあ、誰が産んでくれたか？」と言うと、前にいた施設の担当の女性の先生とか、自分が産まれた病院の先生だったりします。そんな時、虐待防止センターの愛着プログラムに半年間ほど一緒に通いました。その先生がSの親の話をしたり、Sがたどってきた生活を整理し直したりしましたが、Sは産んでくれたお母さんの事実を完全に受け入れることはできませんでした。しかし、先日フォローアップで愛着プログラムの先生にお会いしてきた時には、Sの実母は病院の先生ではなく、自分を産んだお母さんはどこかにいるけれども、どこにいるのか、誰なのか、自分の周りにいる大人たちは誰も知らない…ととらえているようでした。Sはお腹の中の怒りが痛癢を起こした時に溢れ出て、とめられなくなっていると私たちは考えています。その溢れてきた怒りを、私たちはどうしようもできないですが、ちょっとしばらくつき合ったり、上手に落ち着ける作業を一緒にしたり…そんな中で、私たちとの関係をつくっていったらいいなと思っています。

名前のことですが、事実は事実として、小さい時からしっかりと分かっていることが大事だと思っていますので、幼稚園はSの実名で通っています。「Sも〇〇（里親姓）がいいな。」と言ってくれた時があり、その時には「Sの名前は大事な名前だよ」と話しました。しかし、自分だけが違う名字で、寂しさが強いのであれば、入学を機に通称名で通わせてあげた方がいいのかなと今は考えています。

最近Sは「大人になってもずっとここにいてもいい？だって、僕、お母さん大好きだから一緒にいたいんだよ。」と言ってくれました。とても嬉しいのですが、子育ての目標が「自立」なので、「もちろん、いてもいいけど、お仕事したら1人で住むこともあると思うよ。お兄ちゃんもお姉ちゃんも同じだよ。」と言いました。Sは、「結婚しなくても1人で住むことってあるの？」と聞いてきました。「あるよ。」と答えましたが、小さいうちからそんなことを考えなくてはならないSの不安を想像できる、そんな一言でした。Sのそんな不安を一つ一つ解消しながら、これからも成長を見守っていきたいと思っています。



10 一緒に里親をやきましょう

【里母】

私は6年ほど前に養育家庭の登録をして、現在、年長の男の子と2歳の女の子の二人をお預かりしています。里子のほかに、小学校5年生の女の子と小学校4年生の男の子がおりますので、女の子2名、男の子2名の計4名の子育て中です。里親になるのは実子がもう少し大きくなってからにしようかとも考えたのですが、同年代の子供たちをわいわいにぎやかに兄弟のように育てたいと思って始めました。

里子のK君については、初めて会ったときはおとなしそうで物静かでしたが、今はもう元気印で、全然、じっとしていません。よく里親同士でも話題にするのですが、里子との交流は恋人との交際みたいなもので、交際中はいい顔をするけど、一緒に住んでみて初めて相手のことがよくわかるというのと同じだよねと言いますが、本当にそうだなと思います。K君は、すごくおっちょこちょいだし、じっとしてられないので、どこに行っても、何を習いに行っても、怒られてばかりの子だけど、かわいくて、すごくいい子なんです。プレゼントだって、子供たち4人の中で一番喜んでくれます。「わあ、ありがとう。Kくんの？これ欲しかったんだよ。」とか、お兄ちゃんのお古を出しても、「わあ、これ、ずっと格好いいと思っていたよ。これ、今、着てもいい？」とか言ってくれるのです。

里子のRちゃんは施設での交流が大変でした。施設職員の方から離れず、私の顔を見たらすぐ泣いてしまう子でした。上手くいったと思って、また次に行くと全然だめとか、交流に実子を連れて行くこともあったのですが、Rちゃんは顔も見えてくなくて全然遊ばなくて、実子に行かなきゃよかったと泣かれるような始末でした。Rちゃんがあまりにも嫌そうだし、泣くので、気が重くなったこともあったのですが、多分、こういう子は大切な人がよくわかっているのだなと思ったのです。だから、私に心を開いてくれたら、絶対私との関係も大切にしてくれると信じて、頑張って交流に行っていました。Rちゃんと一緒に住んでみると、やはり頑固で強いといった感じはありますが、人を笑わせるのがすごく大好きで、おもしろい子です。

私は、子供達がけんかしても何でも、4人でドタバタやっている姿が好きです。携帯の待ち受け画面にしている写真があります。それは、お菓子を食べている実子のねえねの横から、そのお菓子を取ろうとしているRちゃんがいて、その横で指を差してねえねに教えようとしている実子のにいにがいて、にいにの隣で違う方向を見ているけれども、お兄ちゃんにお菓子を差し出しているKくんがいてというもので、私はそういう感じがすごく好きです。

里親をやっていると、「すごいね、立派だね。」なんて言われちゃうことがあるの

ですが、そんなことはなく、それどころか、実子だって全然たいしたことないのです。実際には一日に何度もむかつきたり、怒っちゃいけないとわかっているけれども怒っちゃって自分のことが嫌になっちゃったり、里子を嫌いになっちゃいそうなくらいがっかりくることもあります。私自身もっともっと成長する必要があるなと思っています。でも、KくんとRちゃんをお預かりして、その二人に家庭ってこんな感じなんだよとわかってもらえたり、味わってもらえてるだけで役に立っているのだとしたら、すごくうれしいです。子供たちの成長については不安も抱えていますが、みんながきちんと自立をして、すてきなパートナーを見つけて、結婚式に呼んでもらえる、そんな日が来たらうれしいと思っています。

この体験発表集をお読みくださる方には是非お願いしたいことが二つあります。一つは、私達、里親が、親の病気等で緊急に保護を必要とするお子さんをお預かりするという一時保護に協力をして、地域の普通の家庭のお手伝いをすることにより、養育家庭が特別視されることがなくなれば、長期委託の里子を預かって育てやすくなるのではないかと思います。区市町村の方からもいろいろお力をお貸しいただければありがたいと思います。

二つ目は、養育家庭になるかどうか迷っている方がいらっしゃいましたら、ぜひ前向きに考えていただきたいということです。確かに、かわいい、かわいいだけではなくて、大変なこともあります。ほとんどの里子には親がいますので、親との交流があったり、長期で育てるはずだったけれども、親戚の方が引き取るというようなことがあります。心の傷を負ったりとか、障害がある子も多いので、プロの手を借りることや、研修受講や勉強が必要です。保育園、幼稚園、学校にもよく知ってもらって、連携を取ることが大切です。しかし里親同士のつながりや、里子たちが同じ立場の友達をつくるのが助けになると思っています。里子たちは、真実告知、早かれ遅かれ、自分が里子であるということを知って、その壁を乗り越えて行かなければいけないときがありますから、そのときに同じ里子同士で、同じ立場の仲間や相談相手が必要ではないかと思っています。そのような活動は支部で行っていますので、登録されましたら、お子さんのためにも、ぜひ支部にも参加していただいて、みんなで考えて、みんなで育てていければなと思っています。愚痴も言えるし、みんな、自分のことのように考えてくれるし、励ましてくれる人たちなのです。みんなで助け合って、力を合わせていけば、私みたいなのだって何とかやっていきますので、ぜひ仲間になっていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

11 いつでもどこでも、初めの一歩

【里母】

16年前、パートで働いていた時に里親さんの本を読んでやってみたいと思い、上司に話をしたら里親制度の連絡先の電話を教えてくれ、後押しをしてもらいました。家族にも私の気持ちを話しました。びっくりして、何のことなのか理解できず、まして実子が二人いるのにと言われましたが、やってみたい強い気持ちを出して、OKをもらい、研修を受けに行ったり、講習会に参加したりして里親認定されました。

紹介された目のくりくりした可愛い子は、幼稚園に通っている3歳6か月の男の子で、A君はアトピーを持っていると説明されました。女の子希望でしたが、写真を見ているうちに男の子でも女の子でも、そのときの出会いが大事かなと思いました。

実子は、成人した子供と中学3年の高校受験を控えている時期の子供で、受験が終わったらA君を迎え入れることに決め、6か月の間に日帰りの遊びや外泊、A君の通っている幼稚園の行事に参加したりしました。そんななか、「今度いつ来るの。また来てね。」と、寂しそうな目に涙をためていた別れは、私たちも辛かったけれども、A君はもっと辛かったと思います。その姿を見て、A君と家族として生活してみたいと強く思う気持ちになりました。アンパンマンのぬいぐるみと、3歳過ぎまでのアルバムと洋服と小遣い帳などを荷物に我が家へ着き、学園の先生方から「おうちの人たちに分けてあげてね。」と渡された手づくりのクッキーを、娘たちと一緒に食べました。そのときの優しいしぐさと目が可愛かったのを、今でも忘れずに思い出します。

近所の幼稚園に入園し、仕事が終わってお迎えに行くと、担任から「今日もパンツのお土産です。」と笑いながら渡されるのがしょっちゅうでした。心配でセンターの職員に相談し、「大人になってオネショの人はいないから、大丈夫ですよ。」と言われて、悩んでいたのがすっと消えました。また、アトピーもひどく、血が出て風呂へ入るのをすごく嫌がりました。皮膚科の飲み薬と塗り薬で少しずつよくなりました。気管支炎もありました。小学校のマラソン大会では、咳が出ても最後まで走り抜きました。にこにこしながら走っていたのを今も思い出します。同級生のお母さんに、「いつもにこにこしているのね。」と言われていました。素直で優しく、口がよく回って、周りを明るくしてくれて、いつもにこにこしているけれども、寂しがり屋のA君でした。困った時は、里親さんの先輩がきちんと話を聞いてくれて、「うちの里子もそんなこともあったわね。」と助言もしてもらい、本当に心の支えになってもらいました。近所の人たちにも好かれ、優しくしてもらったり、叱ってもらい、孫のような近所づき合いをさせてもらいました。しかし、中学2年生のクラス替えの夏過ぎから声を閉じてしまいました。家では少し話しましたが、筆談になったりもしました。部活で、「ボールも取れないのに野球部に来るな。」と言われ、その悔しさで口を閉じてしまったA君。ま

た、視力も悪くなり、メガネをつけて行くと、級友にメガネを壊されたりしました。A君を理解してくれた部活の先生も、2年の時に転校で異動になりました。物がなくなったり、バックの中に給食の食べ残しが入っていたり、担任の先生に相談しましたが、親身に手を差し伸べてもらえず、困りました。でも、悔しい辛い毎日なのに、休まず通い受験期を迎えました。多少のお金がかかっても私立高校の方が面倒を見てもらえると思い、「通学時間がかかるけれども、どうする？」と話す、「高校へ行ったら声を出す。」と言い、その学校へ足を運びました。面接とテストの受験はどうなるかなと心配しましたが、無事受かりました。本人は、照れながらも嬉しさを顔に出していました。A君は自分の声が出なくならないように、ストレス発散のためにと、小遣いで安いカラオケに行って歌っていたそうです。自分なりの努力もしていたのですね。

専門学校を受ける準備をしている夏休み頃から行動がちょっと落ちつかなくなりました。この家から出て行かなければいけない不安もあったのでしょうか。ちょうど発達障害の講演があるからと誘われて行ったら、A君と似ている所があると思い児相の担当に相談しました。心理のカウンセラーを受けることを勧められ、A君も素直に受けてくれました。実の子供より、A君のことが心配で、将来はどうなるのかなと辛い考えが頭の中でいっぱいでしたが、A君はもっともっと不安だったと思いました。今は家を出て生活しています。たまに遊びに来ると「実家に帰ってきたみたいだ。また来てもいいですか。」と言って、後ろ姿を見送るときは、ちょっと涙が出てきてしまいます。一緒に住みたいでしょうが、どこかで区切りをつけるのも必要だと思っています。

その後、お願いされた中1のB子さんは、親元へ帰れるまでの短い期間でした。気管支が弱く、ぜんそくを持っていましたが、大きな病気もなく過ごしました。学校の先生方の温かい見守りや個別指導で、クラスでそれなりの良い結果がでて喜んでいました。本人の努力と、周りの友達が優しく接してくれたおかげだと思います。夕食が終わると、B子さんのパパ、ママ、兄弟のこと、いろんな話をしてくれました。他愛のない話がいっぱいできたのも、人懐こく他人への思いやりをもっている頑張り屋さんだからでした。小遣いから東日本大震災の募金をしたり、計画停電中、ろうそくをつけての夕食やテスト勉強をよく覚えています。親元へ帰ることになり、学校の先生、友達から色紙いっぱいメッセージをもらってきました。本当にうれしそうでした。

短くても長くても、一つ屋根の下で生活すると、自分の子供以上にかわいくなり、また、愛しくなります。楽しいこと、辛いこと、心配な事がたくさんありましたが、近所の人たちや里親サロンで愚痴を聞いてもらったり、仕事のスタッフにもフォローしてもらったり、児童相談所の支えもありました。また、私も病気らしい病気もせず、生活させてもらったことに感謝したいです。いつでもどこでも、初めの一步のつもりで里子との生活をしてきました。また次の、新しい出会いを楽しみにしています。

12 初めて里子を迎えて

【里母】

私たち家族の一員となった里子のことをお話しさせていただきます。現在里子は、4歳10か月になります。

現在、我が家は夫と21歳の長女、里子と私の4人家族です。私は8年前に夫と結婚。その当時、長女は12歳でした。そのときから私たち3人の新しい生活が始まりました。思春期の子どもを持つ母親になるということは、自分が思っていた以上に大変なことでした。また、私たちの通っている教会の友達の中に養子縁組をしているカップルがいて、養育家庭とは何か、今、施設で暮らしていて、家庭の温かさを必要としている多くの子どもがどれほどいるのかということを知りました。家庭の愛を必要としている子どもにとって、また、私達のように子どもを育てたいと望んでいる者にとって、互いを必要とし合う、今の私たちが求めている関係なのではないかと思いました。たとえ、自分のおなかを痛めた子どもではなくても、それでもよいのではないか。知らないうちに、長女との関係で乗り越えてきたものが、自分を後押ししてくれる力になっていることも覚え、養育家庭を始めていきたいという気持ちが強くなっていきました。そのとき、私たちの決断は夫婦の決断ではなく、長女も交えて話し合ったゆえの決断として、家族3人のきずなも強くなったことを覚えています。初めは、養育家庭の中でも養子縁組を希望していました。しかし、養子縁組に出される子どもは多くないこと、また私たちは経済的に、まだまだ共働きをしながらの人生設計が必要だったため、一定の経済援助が出る里親手当を受けながら、できるだけ年齢の低い子が一時的でもいい、できれば長く我が家にいてもらいたいという願いを持って、里親になる決断をしました。平成19年7月、里親の登録をし、里親認定され、4か月たったころ、我が家にMちゃんを紹介されました。私たち夫婦は「交流します。」と返事をして、送られてきたMちゃんの写真を見てはニヤニヤして、早く交流が始まることを本当に楽しみにしていました。平成20年1月15日、Mちゃんが1歳になったばかりのとき、乳児院を見学し、初めてMちゃんに会うことができました。よく笑う、人懐こい目をした本当にかわいい子で、やっと立って歩けるようになったばかりでした。それからというもの、仕事をする傍ら週に3回、通いました。交流期間中、Mちゃんは日を追うごとに私に懐いてくれるようになり、私が面会に来るのを待っていたかのようなそぶりも見せるようになってくれました。休みの日になると、夫、ときには長女も一緒に行ってくれて、幸せな交流期間でした。

2月に入ると外出が許され、施設近くの子供服のお店でMちゃんと一緒に、Mちゃんに合う洋服や靴を買いました。3月に入ると1泊2日の外泊。2度目の外泊では、外泊してそのままこちらが大丈夫であれば委託になると言われ、そのまま委託。Mち

ゃんが来てから初めの2日間ほどは、なれない環境で不安もあったのか、夜泣きが続きました。でも、3日目以降はすぐに寝るようになり、よく食べ、寝て、元気で手がかからず、すべてが新しいことばかりの新米ママにとって、本当にママに優しい子でいてくれました。

それから半年後、以前私が勤めていた職場に復帰するため、Mちゃんは保育園に入園し、現在に至っています。Mちゃんは、朝から晩までハイテンションで大きな声を出してはよく動き、よく笑います。学校で疲れて帰ってきた長女に対しても、雰囲気も読まずに猛烈アタックするなど元気いっぱい。家族を明るくしてくれています。Mちゃんが18歳になったら措置解除があり、Mちゃんの将来はMちゃんの意味にゆだねられます。それまで何事も起こらず、そのままMちゃんが家の子でいてくれたら。でも、もし実のお母さんがMちゃんを引き取る準備が出来たなら、私はMちゃんを喜んで送り出せるのか。今、自分が里親でありながらも、その立場を忘れてしまうほど、感情的には母親そのものの私です。養育家庭、その役割は社会的養護であるということを知りつつも、かけがえのない私たちの里子、Mちゃんとともに過ごせる時間を大切にしていきたいと思っています。最後に、養育家庭を始められたことを心から感謝しています。里子のMちゃんを与えていただいたことで、私たち家族は本当に豊かになり、幸せを感じています。また、そこで起こる家族の問題を通して多くの迷い、葛藤、失敗を繰り返し、子どもによって親としても成長させられていると感じています。

私たちの家に来てくれたMちゃんは1歳で来たこともあり、本当にすくすくと育ち、育てやすい子であり、それは正直、いろいろな里親さんの話を聞いても恐縮してしまうほどです。また、最近夫婦で、長女があと2、3年して落ちついたら、長女の人生は長女の人生、私たちの人生は私たちの人生として、もう一度長女に伝え、新しい里子ちゃんが我が家に来てくれたらいいね、などと話しています。



13 ともに育つ、泣き虫 A 君と私

【里母】

私は、今、4歳の男の子の里親をしています。彼は乗り物、特に「機関車トーマス」が好きで、そして、とても泣き虫です。

私たちは、認定を受けて1か月もたたないうちに、児童相談所から「A君という子供さんがいるのだけれども。」とお話がありました。話があった子供は全部受けようと思っていたので、受託することにしました。

A君はよく泣きました。私は、自分で納得して泣きやむようにしなければどうにもならないと思っていたので、泣かしっ放しにしていたら、近隣から児童相談所に虐待通報されてしまいました。私としては、普段の流れだからどうってことないと思っていたのですが、暑かったので窓を全開にしていたため、泣き声が相当外に漏れたみたいで。児童相談所の人に来て、いきさつを話しました。児相の担当者から、「泣いている時は、1時間ぐらい子供が泣いたとしても、途中で様子見の時間が必ずあるから、その時にちょっと違う方向に気持ちを向けると泣きやむよ。」と教えてもらいました。それでA君が泣いた時に観察すると、確かにA君は途中で私の方を見るのです。様子見です。すかさず、「とりあえず、暑いからお茶を飲もう。」と言いました。そして麦茶を飲んで、飲み終わったところで「はい、泣いていいよ。」と言ったら、「今度はお母さんが泣けば。A君、泣きたくないから。」と言ったのです。そして、すぐにおもちゃで遊び始めたのです。

うちの母は次のようなことをよく言っていました。「泣くのがコミュニケーションだから。だんだん大きくなるにつれて泣かないで、言葉で言うようになるから、とりあえず泣いた時に話しかけなさい。そうすれば、言葉を覚えるし、そういったコミュニケーションもできるようになる。そうすると、だんだん泣く量としゃべる量が入れ変わってくるから。」と。それで話しかけるようにしました。そしたら、最近は泣かなくなりました。泣かないで、自分の要求を言葉で伝えられるようになってきました。

その他に困ったこととしては、A君の家出事件というのがありました。12月に家の大掃除をしていた間、トーマスを見ていたA君はいつの間にか外に出て、家の近くにある駅からモノレールに乗って、多摩動物公園に行ってしまったのです。慌てて近所を探しましたが、警察から連絡があり、見つかってほっとしました。でも、これでは困ったな…。このことを私の母に相談したら、「子供に変われと言って子供に変えさせるよりも、自分が変わる方がいい。掃除なんて、夜中にやったら別に構わないわけだから。何も昼間にやる必要がないわけだから。」と言われました。それでA君を車に乗せて近所をぐるぐる回ることにしました。そうすると寝てしまい、大体3時ごろになって日がかげってくると、外に出たくなくなるみたいなのです。そうしたら家

出もなくなりました。

うちの母からよく「考えることは大事だけど、考え過ぎると意外と視野が狭くなって、探しものしている時にも、気がつくと同じところばかり探しているというようなことがある。考え過ぎるのは、視野が狭くなるからよくないよ。大体、人生って何とかかなるさ。子育ても同じで、結果はすぐに求めないで、長い視野で考えていると、気がつけば何とかなっているものだ。」と言われて、今は、そんなものかなという感じでやっています。

最初は長期委託という約束でいたのですけれども、途中からおばさんが引き取りたいということで、今はA君をおばさんと交流させています。最初は泣くわ、わめくわで大変でした。最近は泣かなくなったのですけれども、おばさんと交流した後の1週間ぐらいは何でも「やだ、やだ、やだ。」と、いつも自分でできていたことも「やだ。」と言い出すようになってしまいました。A君の気持ちが不安だけにならないように、面会の前にマクドナルドに行ってハッピーセットを食べさせたりしましたが、トイレに行きたいと言い、いざおしっこをする段階になったら、わざと横を向いて、ペーパーホルダーに向かっておしっこをしまい、はね返ってくるわ、トイレを汚すわで、大変な思いをしたこともありました。

回数を重ねるごとに、最近は泣かなくなったのですが、すぐ抱っこと言うようになりました。テレビを見ていても、ちょっと私の気配が見えないと、うるうる目で抱っこを求めてくるようになりました。抱っこしてあげると、安心して、またテレビを見たり、遊んだりするようになります。

A君と信頼関係を結ぶために、毎晩欠かさずやっていることがあります。寝る前に抱っこをして、「いい夢、見てください。」とか、小児ぜんそくがあるので「元気になってください。」と言い、最後に「幸せになってください。」と伝えるのです。おばさんのところに交流に行く時は「おばさんのところに行っても、ずっとお母さんはA君のこと大好きだよ。」と言います。それだけだと、行きたがらなくなっちゃうといけないので、「大人になって、もし覚えていたら、遊びに来て。その時は一緒に大好きなタコのお寿司でも食べようね。」と言って、寝かせるのです。そうすると、安心して寝てくれます。

いつもお母さんはA君の幸せを願っています。今でもそう思っています。



14 泣かれても泣かれても、通い続けたことで掴んだ絆

【里父 & 里母】

●里母

私たちは、50歳を超えています。初めての子育てです。今、里子として暮らしている女の子は3歳です。委託されてからまだ5か月弱です。

40歳を超えたときに今の夫と知り合いました。夫がとても実子を望む人だったので、不妊治療を始めたのですが、なかなか難しく、やっぱりできませんでした。ただ、そのときは体もつらかったし、精神的にもとても疲れたのですが、そのときに「もし、子供がいたらどうなのかな。」ということを考えるきっかけになったと思います。子供がいたらこういう生活をしようとか、随分思い浮かべました。

結局、実子は叶わなかったのですが、その後、夫と話し合いを重ねて、児童相談所の門をたたききっかけになりました。

里親として認定されてから1年近く経ったころに、「2歳7か月の女の子が養育家庭をさがしています。」というお話がありました。私たちは小さい子をできるだけ長く育てたいという希望を出していましたので、「これは神様の授かりものがきた。」みたいな気持ちで、「お願いします。」というふうに返事をしました。

●里父

しかし、この女の子に候補家庭として5家庭ほど挙がったというので、僕らは50過ぎていますし、きっと若い方に決まるのではないかと考えていました。

●里母

だから、強く願うわけでもなく、淡々とのんびりと待っていたら、「〇〇さんに決まりました。」というお話で、本当にありがたいなと思いました。

乳児院に面会に行った際、この子は本当に驚いた顔をして、顔を背けました。自分に対して来る人に対しては、警戒して、そういう態度を示すものだと後から伺いましたけれど、私はちょっとショックでした。最初に顔を背けられたとき、「大丈夫かな。」という気持ちになりました。

乳児院では、私たちが子育てを今まで全くしたことがないということで、かなりの時間をかけてくださいました。それこそ、最初は先生がいらして、お子さんが何人かいる中で、一緒に入ってちょっと遊ぶ。これを何回か続けて、その後、午前中に3時間、お昼ご飯を食べるまで園庭で遊んだりとか、お部屋の中で遊んだり、公園に行ったりとか。それも、先生と何人かのお子さんと連れ立っていくということが何回かあって、そこら辺までは、何となくお手々もつないでくれたし、にこにこしてくれていたのですが、だんだん回を重ねてきて、ステップが難しくなっていくのです。お友達がいなくなり、先生がいなくなったりすると、すごく不安定で、揺れて、先生が来

るまで、とにかく泣き続けていたこともありました。「どんなに泣いても、抱っこしてくださいね。」と言われて、私は本当に必死で抱っこしたのですけれども、泣き続けて、泣き続けて、「大丈夫なの、これ。」と思うぐらい。でも、抱っこしなきゃ、抱っこしなきゃと。とにかく、言われるままに、これでいいんだと思いながらやっていました。

ちょうどそのとき、夫も同席しているときがあって、横を見ると、余りに泣くものですから、夫まで悲しくなってしまったのか、横を見ると泣いているのです。私も、「これは困ったな。」と思ったけれども、かえって目が覚めて、「いや、大丈夫だ、大丈夫だ。」と自分で言い聞かせながら抱っこしていました。それも随分続きました。

先生方にも、「このお母さんではだめだ。」と思われているような気がして、「こんなはずじゃなかったな。」というので本当に落ち込みました。だけど、なぜかあきらめなかったんです。

「どれだけ泣いても居てくれるんだ、お母さんは。」ということが大事だったみたいです。とにかく、泣かれても、泣かれても、そばにいました。抱っこしていたり、抱っこしていなければ隣に座っていたり、そうこうしているうちに、「別に泣いてもお母さんは居てくれるんだな。」と思ったのか、だんだん泣くのが少なくなってきました。

この子は乳児院から一度おうちに帰って、またうまくいわずに、再度乳児院に戻された子だったのです。その乳児院の中でも、担当が病気になったり、替わったりということで、養育者が何人もかわった経験がある子で、愛着関係がきちんとできていない子供だったのです。「愛着障害」という言葉を研修では聞いていたし、本でも読んでいたのですが、「これがそうだったのか。」と思ったら、少し気持ちが軽くなりました。同時に、かわいそうだったんだなと思ったら、「早くうちに来てくれないかな。」という気持ちがますます強くなりました。

泣いてもいましたが、とてもかわいいところを行くたびにを見せてくれていたので、私は通い続けることができたのだと思います。

●里父

バイバイするときに、乳児院の玄関で、ハイタッチして別れるのですが、最初は元気よくやっていたのですけれども、だんだん、私どもと信頼関係というか、愛着関係ができてくると、ハイタッチすると僕らが帰ることがわかっているものですから、それをしなくなったのです。すごく嫌がって。乳児院に帰すと泣くものですから、あの時は本当に辛かったです。

あと、犬との関係がありました。私どもが交流して帰ってから、「Hちゃんと会ってきたんだよ。これがその子のおいなんだよ。」ということで、毎回においを嗅がせて、「今度、Hちゃんがうちに来るんだから、今度また会いにいこうね。」と言いながら、犬を連れて乳児院の近くまで散歩に行きました。

一緒に散歩に行ったりする中で、だんだん犬との距離も近くなって、今では、犬の名前を呼んで、ぐりぐりになで回すというか、ヘッドロックしたりとか、おもちゃみたいにして、ちょっとかわいそうなところもあるのですが、本当に仲よくなってきています。

●里母

そうなんです。うちの前まで行ってから犬を連れて、散歩に行くというのがこの子の外出だったのです。2、3時間の外出だったのですが、いつも行く公園に行って、一回りするぐらいだったのですが、それがすごく楽しかったようです。

乳児院は外出することが少ないものですから、鳥を見れば、ハトでも「カラス」と言っていましたね。それから川も橋も知りませんでした。

ちょうど、外出の期間が4月5月ぐらいだったのですが、いい風が吹いてきて、私が「いい風だね、気持ちいいね。」というと、それから風が吹いてくるたびに「いい風だね。」と、そのHちゃんも言うようになりました。そのころから、だんだん気持ちが寄り添ってきたなど、私ものんびりして、Hちゃんものんびりしてきたかと思えます。

最初は、うちに来てもお昼寝もできずに、ちょっと緊張していたのですが、だんだんお泊まりしてもすぐ寝てくれるようになったり、うちに来るのを楽しみにするようになりました。

周りのご近所にも「実は里親になることになって、これから子供さんを引き取るんですよ。3歳の女の子ですが、見かけたらよろしくお願いします。」とお声を1軒ずつにかけました。そしたら皆さんとても好意的に喜んでくださりまして、今も会うたびに「おはようございます。」とか、里子の名前を呼んでくださったりとかして、とても温かく見守ってくださっています。

今はまだ本当に始まったばかりで、大変なこともあるのですが、いろんな可能性を秘めた光の玉がうちに来たなど。それが、一番私が思っていることです。

●里父

体は小さいですけど、すごい存在感ですよ。黙っている時間がないですから。本当によくしゃべるし、笑うし、歌うし、本当にささいなことで泣くし。本当に静かじゃないですよ。

夫婦二人と犬だけのときは、犬も散歩に行きたいとか、ご飯を食べたい時はワンワンしますけれど、そのほかはほとんど寝ています。しかし、子供は、起きているときは本当に存在感を示すというか、本当に元気だと思います。

たまたま、私は保険の代理店という仕事なものですから、別にどこでもできる仕事なものですから、子供を受け入れるということもあって、今は事務所を自宅にして

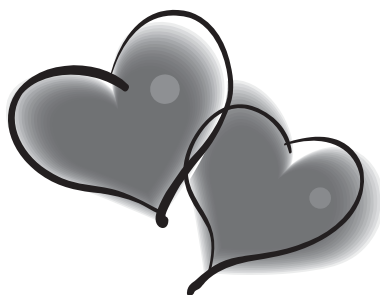
います。ですから、子供が幼稚園に行くときは一緒に自転車に乗せて、「行ってらっしゃい。」としますし、帰ってきてピンポンと鳴らせば、降りて行って「おかえりなさい。」とします。そのたびに、朝行くときも、帰ってきてからもハグしています。それは、変な話、かみさんともそうですけれども、それがうちとしては当たり前のことなので、もちろん犬ともそうです。犬とも、「いってくるよ。」とか「ただいま。」と言って、そういう中で育っています。なるべくスキンシップはちゃんととれるようにして。

ただ、困ったことがあるとすれば、やっぱりお母さんが一番なんですよ。ですから、「お母さん抱っこ」なんですよ。私に抱っこと言わないのです。手をつなぐのも。

「お母さん一番の子」ですが、今年の夏は、子供とお風呂に水を張って、水風呂に入って水鉄砲で遊んだり、水かけっこしたりしました。裸同士でそんなことができるなんてことは、本当に考えられませんでしたから、去年は。

そういうことができたというのはすごくうれしいですし、何よりうれしいのが、「お父さん。」と呼んでもらえたことです。近くに来てだーっと走ってきてドンとぶつかったりとか、座っていると、体に乗ってきてひっぱったりとか、そんなことをしてくれるのが一番うれしいひとときかなと思っています。

それこそ、18歳になるまでは、きっといろんなこともあるでしょうし、きっと生意気にもなるでしょう。だからこそ、今のかわいい姿と接しているのが、私にとっては宝物の日々だなと思って、それを貯金しておけば、少々小生意気になっても、「まあ、いいか。」と思えるのかなと、今から将来のことを想像しています。



15 M子の高校入学奮闘記

【里母】

Tと申します。養育家庭をやってみたいという方がこんなにいっぱい体験発表会にいらっしゃるなんて素晴らしいと思います。私が受託した里子の人数は少ないのですが、10年ぐらいやってきまして、そのささやかな体験が皆様のお役に立てればと思ひまして、お話しさせていただきます。

まず、どうして里親になったのかといいますと、一番下の実子が大学生のときに、主人が江東区報で里親募集というのを見て、「こんなのあるけれども、どうする。」と言うので、あまり深く考えもせずに、応募したわけです。

何しろ主人の方から言い始めたもので、主人の方の紹介をしておきますと、主人は中学3年のときに父親を亡くして、学業をしたいのに十分な経済的バックボーンがなく随分苦労したらしいのです。ですから、里親をやるということについては、本来勉強したい子供の学費がない子を面倒見たいと、そういう趣旨があったのです。それと、小さい子供なのに両方の親が面倒見られないなんて、どんなにかわいそうなことだろう、どんなに心寂しい思いをして生活しているのだろうと、何か自分たちの昔に感情がシフトしてしまうわけです。それで、応募しました。

今日は、5か月お預かりした女の子のことを紹介します。その子はM子といたしました。M子が我が家へ来たのは中学3年生の秋、11月でした。4か月間は一時保護所にいて、それから我が家に来ました。今まで通っていた中学校には通えないので、我が家の地元の中学校に転校しました。勉強も難しく、友達もいないので、とても寂しい思いをしたのではないかなと思いますけれども、そのうちに話しかけてくれる子もできたようです。帰ってくるといっぱいお話をして、毎日食事しながらおなかを抱えている。そこへ主人が帰ってくると、「また笑い声が向こうから聞こえたよ。」なんて言って、笑って入ってくるということがありました。それでも中学3年生ですから、笑って、お風呂に入って、寝ちゃうというわけにはいかないのですね。そろそろ勉強の方にも持っていかなくてはと思ひました。

私たちも、算数ぐらいなら教えられると思ひまして、算数の問題を「 $1+1$ は」と作るわけですね。そうして与えますと、どんなに易しいのでも「 $1+1$ は、 2 ？」と私の顔を見て言うわけです。だから、「うん、 2 よ。」と言うと、 2 と書くのです。次は「 $1+2$ は 3 ？」と聞くわけです。「うん、 3 だ。」と言うと、 3 と書くのです。余りにもそうやって聞くものですから、「聞かないで、自分がこれが正しいと思ったら書きなさい。わからないと思ってもとにかく書いてごらんなさい。」と言って、全部で10問ぐらい出し、「10問終わったら持ってきて。そしたら丸つけしてあげるから。」ということでやりました。最初は戸惑っておりましたがけれども、徐々

に書くようになったのですね。丸をつけられると嬉しくて、「ああ、 $1 + 1$ は2でいいのだ。」みたいな、すごく自信をもってきたのですね。「2でいいのよ。あなたが2と思ったら、2と書きなさい。何しろ受験するということは、おばさんもないし、友達のを見ることもできないのだから、自分の思ったことを書く以外ないから。」と言って、指導していきました。

丸つけてあげるからと言ったものの、どうしてこの子は答えを確認しなければ書かないのかという点が気になりました。それで、どうしてこの子は $1 + 1$ を2と書かないのだろうかということを深く考えました。そうすると、ああ、そうか、今までに机についたことがない。勉強をまともにしたことがないから、いつでも誰かに答えを聞いてやっているのだと。自分で考えるということをまずよけて、人に聞か先生に聞くかで正解を書いてしまうわけですね。正解ですから、当たるのは当たるのですけれども、自分で考えるということをしていないのだなということに思いがきました。それこそ3か月後なんですからけれどもね、そういうのがわかるのは。

そんなこんなで、卒業式が徐々にやってくるのですね。受験しましたけれども、面接と作文だけだった1校目は落ちまして。卒業式の当日になっても、M子はまだ進路が決まっていないわけです。卒業式は朝の10時から。2校目の合格発表も朝の10時から。だから、私は試験会場の高校に行って、M子は中学校へ行きなさいと言ったのですけれども、もうおなかが痛くて行けないのですよね。決まっていませんし。そうして、10時に高校に行きましたら、番号があったのです。もう本当に夢みたいで、「ああ、よかった。」と思いました。卒業式に何とか滑り込んで、担任の先生もクラス全員の前で「M子が受かった。」と言ったら、みんなが手をたたいて喜んでくれました。在校生がアーチをつくる中、徐々に校門の方へ歩いてくるM子の姿を見てみると、目がかすんでぼやけてしまいました。学科試験のある2校目で受かったというところが、何ともM子の努力だったと思うのですね。いろいろなことがありましたけれども、M子はおばあちゃんの家へ帰りました。高校に無事行っていることを願っています。

最後にM子は、「食べ物を電子レンジの中に入れてばなしにしないのよ。」と、私にそう注意して行きました。だから、私も電子レンジにものを忘れると、ああ、M子、M子と思って、今でも思い出します。



16 長い交流の後に

【里母】

我が家は、5年前に里親として認定されました。私たち夫婦は、大の子供好きですが、子供に恵まれることはありませんでした。テレビでは児童虐待が連日のように報道されていました。生まれてきても実の親に虐待を受ける子供がこんなにもいるのか、死なせてしまうくらいなら私にくださいという思いが、里親をやらせていただくきっかけとなりました。

乳児院に預けられていた子供を保育園に預けるのはかわいそうだと思い、10年間勤めた会社を認定後に退社しました。しかし、1か月、半年、1年経っても委託がありませんでした。

認定から2年が経過するころ、その乳児院の中で、一番の人見知りで頑固ちゃんだという2歳5か月の女の子のお話をいただきました。待ちに待ったお話だったので、うれしくて、うれしくて、夫婦でドキドキしながら、その子に会いに行った日のことを今でも鮮明に覚えています。太くて濃いまゆは一の字につながって、黒目がちな目でぎっと私たちを見上げるその顔には、本当に「私は頑固です」と書いてあるような、一筋縄ではいかなそうな子だなという印象がありました。

そして、期待を裏切らない交流が始まりました。私たちになかなか懐かず、交流をしているお部屋から外廊下に出ることさえも拒否され続け、結局、最後まで手をつなぐこともできませんでした。状況の変わらない交流に、本当に毎日へこたれてばかりいました。3か月ぐらい交流を続けましたが、状況は変わりませんでした。このまま続けても進展はないだろうという話し合いの結果、外出も手をつなぐこともないまま、連れ去るようにして彼女と暮らし始めることとなりました。

しかし委託後の生活は、こちらが警戒してしまうほど落ちつき払っていました。そのとき初めて彼女のかわいい声を聞きました。そう言えば、「3か月の交流中に1回も声を聞いたことがなかったね。」と、改めてびっくりしたものです。意外とこんなものなのかなと思った翌日から急に二足歩行をしなくなり、自力で立たなくなってしまうので、家の中でも、家事の最中も、トイレもずっとだっこで、過ごしました。そのうえ、固形物を吐き出してしまうようになり、離乳食のようなものしか受け付けなくなりました。

さらに、夜驚がひどく、子供部屋の防音工事もしました。初めてのことはもちろん、理由のわからないパニックもたびたび起こして大騒ぎし、お隣がたびたび虐待を心配して訪ねてきてくださるようなこともありました。

また、こだわりもあり、そのときはシールが大好きで、スーパーのスイカに貼ってある産地のシールをはがそうとして、穴を開けてしまったこともありました。音や光

にもすごく過敏で、魂が抜けてしまったかのように固まってしまうことがよくあり、意思の疎通に困難を感じることもありました。

大変だというSOSを乳児院と児童相談所に出させていただきましたが、当時はまだ今ほど発達障害のことに関しても取り上げられておらず、「それは試し行動です。あとは、神経質にならずに抱きしめて愛してあげてください。」と相手にされませんでした。

何よりも一番つらかったのは、睡眠時間が1、2時間しか取れなかったことです。それなりに覚悟もしていましたが、極度の睡眠不足と、24時間ストレスにさらされる毎日に、もはや正常な判断ができなくなっていました。正直、彼女をかわいいと思えてない自分がいて、こんなはずではなかったのにと、大人気なく涙がとまらなくて泣いていました。傷ついた子供への認識が甘かったと思います。

ある日、ソファでずっと半日ぐらい泣いていたところ、彼女が不思議なことに、突然、おなかの上によじ登ってきて、丸まってじっとしていました。当時はその姿が胎児のように見えて、おなかの上で生まれ変わりたいなと思っているようにも見えました。その日から毎日、何かあるとおなかの上に乗ってきて、じっと丸まるようになりました。不思議なのは、週末に主人のおなかの上でも、じっと丸まっているようになっていました。それから、だんだん距離が近づいていったような気がします。今はもう丸まれないほど大きくなりましたが、何か悲しいことがあったり、寂しかったりすると、今でもおなかにぎゅっと顔をつけるのが好きです。

現在、子供は小学校1年生になりましたが、幼稚園の年中のときに、特定不能の広汎性発達障害という診断をいただきました。お友達との関わり方を学んだり、学校で傷ついた心をちょっとほっと一息させるためにも療育と、週に一度、通級学級にも通っています。

私は、本当に社会的養護の認識というものが無いまま、勢いだけで里親を始めてしまったので、この5年間で多くのことを学ばせていただきました。

彼女もそうですが、0歳から乳児院だけで育った子供は私が見てきた限りでは、何かしら発達に影響が見られることが多いように思います。発達障害は、生まれつきの脳の障害だと言い切る方もいますが、彼女を見ていると、もっと早くにかかわってあげていれば、絶対、違っただろうなと思えてなりません。

養育家庭への委託率が上がらないという現状もあるようですが、傷ついた子供にさらなるハンディを負わせてしまうようなことがないようにと願います。簡単なことではないと思いますが、乳幼児が施設だけで育つことのないように、そして、1人でも多くの子供たちが家庭の中で育ててもらえるように、これからも活動が続けていきたいと思います。

17 我が家の里子について

【里母】

この子は、あと半年で小学校入学だというときに、新しい家族としての生活がスタートしました。それまでに2年間のフレンドホームとしての交流期間を経ての新しい生活でした。私は、29歳で結婚しました、仕事はしていたのですが、資格を取ったりしなかったのも、しばらくは子供を産まないで仕事を続けていこうと決めたところに、以前、市でフレンドホームの募集の記事があって、その市報をとっていたことを思い出し、今やらなきゃいけないんじゃないかなと強く思って、始めることにしました。

今、我が家に一緒に暮らす里子が3歳のころに、家の近所に児童養護施設があったので、そこでフレンドホームとして引き合わされました。少し発達が遅いのかなというところがあったのですが、とてもかわいらしくて、いとおしい気持ちになったのを思い出します。この出会いが、私たち若い夫婦の新たな生き方の始まりでした。

フレンドホームとしての交流が半年ほど過ぎたころに、養育家庭制度を施設の職員から初めて聞きました。もし可能ならこの子の里親になりたいと夫も希望してくれたので、それが私の助けにもなりました。

養育家庭をすることに対しては、夫の母が猛反対をしました。私たち夫婦がまだ若いということも反対理由の一つでした。

その1年半後に、正式に里子との生活が始まりました。我が家に向かう初日には、夫にも早く帰宅してもらって、子供にきちんと真実を伝える時間を持ちました。子供はよくわからないかもしれないけど、条件付きの愛ではなくて、自己肯定感を持って、自分を信頼して人生を切り開いて行ってほしいなという思いがあったからです。

生活を始めて半年ほどは、本当に子供の興奮状態が続きましたし、気に食わないことがあると、本当のお母さんじゃないくせにと癩癩を起こしたり、私自身も仕事をやめて家庭に入ったので、生活の急激な変化やストレスを感じて、もう本当に疲れ切って、あんなに熱い気持ちがあったのに、この子を施設に返したほうがいいんじゃないかなと思ったこともありました。そんなとき、彼がお世話になった施設に駆け込んで泣いてしまうこともありました。話しているとても理解してくださって、ここが実家だと思っていつでも連れてきていいですよ、と言われたときは、本当にほっとしたのを覚えています。

我が家に来て約2か月後には、小学校入学前の健診がありました。そこで、やはりほかの子に比べて発達が遅れているのを実感しました。学校の先生からも支援級を勧められたりしていたので、発達支援学級に行こうかと迷っていたときに、里親の先輩から、市内にある民間の発達支援教室を紹介していただいて、カウンセリングを受けました。そこで発達心理士の先生に出会いまして、その先生は、「子供学」というとこ

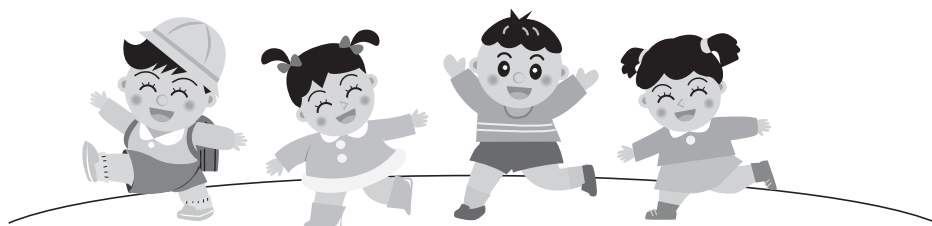
ろから始まった療育をされている方で、その先生に、「もう絶対に大丈夫だから。能力は高いお子さんだから、いい子になろうとしているけど、なかなかうまくできなくて、とっても不安定な気持ちなのだ。だから、ママも本当にいっぱいたくさん甘えさせてください。」とその先生に言われて、もう、はっと目が覚めました。この発達の遅れをどうやって伸ばしていったらいいのかと悩む、本当に暗闇の中で、少しの光が見えたような気がしました。

私も支援教室の先生から学んだこともありまして、子供を褒めることは立派な、一つの行動療法であること。そして、子供は本当に、そのうちにではなく、今、適切な時期に適切な療育を受けることが大切であること。それで、子供を叱ることと怒ることは違う。感情的に怒るのではなくて、短い言葉で、優しく何度も何度も繰り返し言うということを学びました。少しでも実践できるように心がけています。

さらに、彼は発達の遅れの一つの特徴として、微細運動の苦手さがありました。鉛筆を持って字を書くということがとても苦手だったのですが、そのトレーニングとして、支援教室でピアノを習い始めました。本当に毎日続けることはとても大変でしたが、少しずつ少しずつ練習を続けています。それで、私も触発されて、子供のころ挫折していたピアノをもう一度始めたりしています。彼もとても音楽が好きで、家ではいろいろな音楽を聴かせるようにしています。

彼が、時々、「僕は本当のお母さんが育てられないからここへ来たんだよね。」と言うことがあります。私達はとってもあなたを望んで一緒に今ここにいるということ言葉を伝えていきます。

今、彼は小学校2年生になって、普通級で、他のお子さんたちと一緒に学んでいます。授業参観でも、いつも、よくここまで来たなというぐらいに伸びて、一生懸命お友達と楽しく過ごしています。これからもどんな絶望的な状況があっても、子供の伸びる力だけは信じていけると思っています。子育ての苦しみも喜びも味わわせてくれた我が家の子供にまず感謝したいと思っています。



18 養育家庭で育って

【元里子】

私が里子として〇家の一員となったのは、3歳の誕生日を迎える直前だったそうです。父と母には実子がいなくて既に3人の子供を養子として育てていたのです、私は〇家の4人目の子供として生活することになりました。

私たち兄弟は、みんな血がつながっていませんでしたが、上の3人は養子としてゼロ歳のときから里親と同じ名字で育ちましたが、私は里子として引き取られて家族とは違う名字で生活をするので、母はいろいろと困ったそうです。

母は、物心がつくかつかないかぐらいに、自分が里子であり、名字も〇ではないと教えてくれたそうですが自分は全く覚えていません。母が私のことを考えて幼稚園や学校はすべて〇の名前で行かせてくれましたが、二つの名字が自分にあるということにちょっと芸能人みたいな気分で、優越感があるような感じでした。ただ少しショックだったのは、小学校を卒業するときに、お別れ会みたいなものがあつたのですが、その中で「今だから言えること」というテーマでみんな一言ずつ前に出て話す機会がありました。自分の番になって「私はお父さんとお母さんとは血がつながってなくて、実は名字も二つあります。」と話しましたが担任の先生や一部の保護者の人しか事情を知らなかったもので、みんながすごく驚いたことでした。でも、友達の反応は特に変わりなく、普通にちょっとかわいそうだなというような顔はしましたが、その後特にそのことで突っ込まれたりとかはありませんでした。意外に子供にとっては家庭があつて、親や兄弟がいれば名字の違いや実子・里子の違いとかをあまり気にしないものです。

逆に、本当のお母さんに会ったことはあるのかとかは聞かれたことはありますけど、正直あんまり会いたいとも思わないし、今会ったところで親と思うことはできないので、生みの親より育ての親という言葉がありますけど、自分を育ててくれた人のほうが本当の親だと私は思っています。

〇家で育った環境でよかったなと感じている点を話しますと、父母が多忙だったので、私は結構自由に育ちました。父も一応これだけは守るようと、例えば門限ですが、夕方までに帰れとか、あと遅くなるようだったら電話を必ずしなさいとかという、そういう家のちょっとした約束事を決めて、それさえクリアしておけばもう何にも言わない人でした。自由に生活してOKな家だったので、私は親にも家庭にもそんなに縛られず好きなように生活できました。それともう一点が、私は専門学校を卒業し一人暮らしを始めましたが、その時家に帰って来ててもご飯はないし、掃除・洗濯も全部自分でやらなくてはならず、お母さんて本当にすごいということを実感しました。施設で育つとこういう親の有難みは解らないと思うので〇宅で育って良かったなと思

ます。

里子として困ったのは、困ったと言うより少し面倒だったということですが、高校生の時、カラーコンタクトを買いに行ったんですけど、眼科で受診してから来るように言われ眼科に行ったのですが私の場合、里子なので保険証が一般家庭のものと違うので病院で名前が違うことを説明するのが自分では大変で、母に来て説明してもらいました。そのときは不便だなと思いました。また、専門学校生の時、海外研修のためパスポートを作ったり、その他学校で何か手続をするときに名字が違っている、親もいないと結構学校の先生をはじめ里親のことを知らない人が多いので説明するのが大変でした。

私は今、母がやっているファミリーホームで子供達の養育のお手伝いをしています。そこで里子になって何か困ったことはないかと聞いてみたことがありますが、やっぱり説明が面倒くさい、どうやって話したらいいのかわからないと言っている子がほとんどで、里子であることを隠したいわけではないと言っていました。

もし養育家庭になって里子を引き取りたいという方がいて、名前に困るようでしたら、直接子供にどうしたいのか意見を聞いたほうがいいかもしれません。赤ちゃんの場合は、最初から当たり前のように「あなたは里子よ。」と説明しておいたほうが良いと思います。里子は大人になってしまうといろいろ考えてしまうので、何も考えない子供のうちに定着させておいたほうが良いと私は思います。ファミリーホームで子供達の会話を聞いていると里子であることをあまり気にしていない子供が結構いるのではないかと考えています。

あと最近ちょっと経験した話をしますと、結婚して市役所に籍を入れに行ったんですが、婚姻届に親の名前を書く欄があります。私は、O家の養子になっていたのですが、O家の父の名前を書いたんですけど、市役所の人に「親の名前は生みの親の名前」を書くように言われました。「えっ」と思って「Oの父の名前じゃだめなんですか。」と聞いたんですけど、生みの父親の名前を書いてくれと言われました。やはり実子でなく里子や養子でないとなんか聞かれないので、ちょっと悲しい経験をしたと思っています。

最後に、私は結婚したばかりなので、子供をこれから産むかもしれないのですが、もし子供ができなかったり、あるいは1人しか生まれなくて兄弟が欲しいと思ったら、今度は自分が里親になってもいいかなと思います。自分も里子だったので誰よりも気持ちわかってあげられる親になれるのではないかと考えています。



19 問題は必ず起こるけれど、サポーターもいっぱい

【里母】

私は49歳の専業主婦で夫は50歳の事務系のサラリーマン、5歳の女の子Aちゃんを委託して9か月の新米養育家庭です。登録前は年齢から自分の体力が心配でしたが、養護施設の実習で同時に5人の子供を相手にし、「まだ結構いけるかな。」と自信が持てました。里子の紹介は希望どおりになるとは限りませんが、「もし相性が合わなかったら…」という不安には、「人間同士なのでまああること。そう思ったら是非すぐ言ってください。里子、里親、お互いのためになるよう、相談しましょう。」という助言がありました。正直に話をすることはとても重要だと思います。私たちは幸い、初めての紹介で委託となりました。

夫婦だけの生活というのも大変楽しいのですが、二人だけではかなわない子供のいる生活をしてみたい、という欲が出てきたのが登録理由です。子育てで苦勞している友達には、「何を好んでそんな苦勞をするの？」と聞かれては、「里親に絶対になりたい」とか、「立派な思想や崇高なボランティア精神」のようなことを想像されるのですが、実際はそんな大きなことではなく、「何となく、いつの間にかなっていた。」と説明しています。そう言うと、「だから逆にできるのかもね。」と、みんな妙に納得するみたいです。確かに私たちの場合は、あまり真剣に考え過ぎていたら出来なかったかもしれません。

交流の初期は仲よく楽しく過ごしていましたが、2か月を過ぎた頃ある日突然、Aが私に対してだけ、「触られるのも話しかけられるのも一切嫌!!」という強い態度を取るようになりました。私は、何が気にいらぬのか、何を怒っているのか本当に解らなくて、正直、「このご縁はもうないかも…」と思いました。でも、施設に相談をしたら、心理担当の方が、「Aの行動は『私への好意が今まで親代わりだった職員に対する裏切りではないのか?』という葛藤からの行為で、時間が必要です」と説明してくれました。4歳の子がそんな大きな問題を抱えたと知って、Aの中で解決できるまで待つしかないと思いました。それから1か月、「お泊まりするとおじちゃんとおばちゃんの真ん中で朝まで3人で寝れるよ。」という施設の職員さんの言葉で、私に対する態度が本当に一変しました。このことだけを見ても、子供というのは本当に親を必要としているんだなあと、つくづく思いました。紹介から正式委託までちょうど9か月、一時私をあんなに嫌がっていたAは、今は私にべったりです。夫も「パパ」と呼ばれてメロメロで、一生懸命お父さんをしています。朝の出勤前にハグと頬っぺにチュウしてもらっては、50歳のおじさんが嬉しそうな顔をして家を出て行きます。忙しい朝に私もほのぼのさせてもらっています。これも子供の力なんだと思います。

いい感じでスタートした同居ですが、しばらくすると問題が起きました。最も困ったのは夜泣きです。とにかく大声で泣き叫び怒鳴りまくりです。昼間は本当に活発でかわいらしい、どちらかという素直ないい子です。それが夜になると、指一本触れ

てもいないのに全身を硬直させて真っ赤になって、「痛い」「やめて」「ごめんなさい」「許して」と力いっぱい泣き叫び、私を殴る蹴るの大暴れ。「この子の過去に一体何があったんだろう？」とか、「ご近所に筒抜けで、どう思われているだろう？」という心配。何よりも目の前で暴れて泣いているAが哀れになり、この子をこんな境遇にした大人たちへの怒りが込み上げてきて、私自身どうすればよいのか分からないくらい参ってしまいました。私も夫も、里親になって起こり得るどんなことにも対処するつもりでしたが、このことは全くの想定外でした。私は、立っているものは親でも使える精神で、児相や養護施設の方々に相談をし、随分と手助けしていただきました。いろいろなアドバイスをもらい、二つのサポートプログラムにも助けられました。

一つは里親委託等推進員による臨床心理士の訪問相談。2週間に1回家に来てくれて、Aの行動の理由や考え方、対処方法を具体的に教えていただきました。新しい生活に落ちつくには半年ぐらいかかると、頑張る目安も教えていただき大変助かりました。実際には夜泣きは2か月程で収まり、5か月後には落ちついてきて、困ることもだいぶ減りました。もう一つは親子相互交流療法（PCIT）。親子での遊びを通して子供に対する指導方法を教えていただきました。親が少し気をつけられればいいだけの簡単なことばかりで、その後とても暮らしやすくなり、本当に驚いています。

今の一番大きな悩みは、ほっとファミリーであるということと、「どこまで誰まで公表するのか？」ということです。私は、里親制度をいつとはなしに知っていましたが、私が話を持ちかけるまで夫が全く知らなかったのには驚きました。オープンにしていなくてもいいかもしれませんが、夫や私の周囲には里親子はいません。そういったこともあり、もっとコマーシャルする必要を感じています。里親制度が広がってごく普通のことになれば、里親がこんな心配をしなくて済むと思いますし、里子たちが安心して、人に対して警戒心を持たないで住める世の中になるのではないかと思います。または是非そうなってほしいと思っています。Aは私たちの名字を名乗っています。受託後2か月が過ぎ、幼稚園入園の際に、「家族3人で同じ名字にしない？」とAに相談したところ、即答で、「変える！」と嬉しそうに大きな声で返事が返ってきました。話を聞いてみると、それまで自分の名字だけ違うことがとても嫌だったそうです。でも、そんな素振りは全く見せなかったのが、4歳にもなると本当にいろいろなことを考え、言えずに内に秘めていたりするのだなあ、と感心しました。

問題は必ず起こってくると思います。大変なことも多いです。いろいろな問題が起きて、その度にどうしたら良いのかと悩んで眠れなくなったり、おかしくて笑い転げたり、一喜一憂します。叱っているのに、かわいらしいリアクションに笑っちゃうこともあります。多分これからも同じようにアタフタしながら、一人で悩みを抱え込まないで、今の楽しい生活を、家族みんなですべてずっと続けていきたいと思っています。

平成 23 年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	講演会 講師名	担当児童 相談所	参加人数				合計
				養育家庭・ フレッドホーム	区市町村	民生・ 児童委員	一般・ その他	
7月21日	多摩市立子育て総合センター		多摩	3	6	0	10	19
9月27日	文京区シビックホール 5階会議室		センター	1	26	21	7	55
9月29日	東大和中央公民館301号室		小平	4	0	1	4	9
10月7日	瑞穂町子ども家庭支援センターひばり		立川	2	8	5	1	16
10月8日	板橋区立グリーンホール		北	0	0	6	24	30
10月9日	アクロス荒川		北	3	0	24	26	53
10月13日	墨田区子育て支援総合センター		墨田	4	1	2	13	20
10月13日	清瀬市児童センター会議室		小平	3	3	4	18	28
10月13日	調布市文化会館「たづくり」		多摩	3	9	0	23	35
10月14日	西東京市住吉会館ルピナス		小平	1	6	10	2	19
10月15日	福生市商工会館3階		立川	3	10	4	3	20
10月15日	男女共同参画センターらぶらす		世田谷	4	6	21	79	110
10月18日	武蔵村山市市民総合センター		小平	3	11	11	17	42
10月20日	実践女子大学（大坂上キャンパス香雪記念館1階）		八王子	11	10	6	27	54
10月21日	小平市役所6階大会議室		小平	5	2	6	11	24
10月22日	北とびあ		北	0	5	1	32	38
10月22日	狛江市中央公民館		世田谷	5	1	5	14	25
10月23日	教育センター視聴覚ホール		センター	2	5	8	20	35
10月24日	三鷹産業プラザ		杉並	3	30	3	9	45
10月24日	町田市民フォーラム ホール		八王子	6	21	21	70	118
10月27日	昭島市児童センターぱれっと2階集会室		立川	3	5	11	2	21
11月7日	あきる野市役所5階503会議室		立川	4	10	7	14	35
11月7日	生涯学習センター クリエイトホール		八王子	15	24	7	99	145
11月7日	足立区役所13階B会議室		足立	12	8	3	11	34
11月8日	子ども総合センター3階研修室		センター	0	25	37	18	80
11月8日	府中市子ども家庭支援センター「たっち」		多摩	1	10	16	4	31
11月10日	豊島区民センター音楽室		センター	3	8	41	56	108
11月10日	国立市役所3階第2会議室		立川	4	8	0	5	17
11月10日	東久留米市役所1階市民プラザ		小平	4	0	2	6	12
11月11日	武蔵野市中央コミュニティーセンター		杉並	4	18	3	6	31
11月12日	江東区南砂子ども家庭支援センター		墨田	8	4	0	9	21
11月12日	目黒区総合庁舎2階E会議室		品川	3	14	6	7	30
11月15日	奥多摩町子ども家庭支援センターきこりん2階		立川	1	12	5	9	27
11月17日	羽村市生涯学習センターゆとろぎ2階講座室		立川	3	14	7	5	29
11月18日	中野区勤労福祉会館		杉並	1	16	0	9	26
11月18日	健康プラザかつしか（子ども総合センター）小ホール		足立	9	14	4	17	44
11月19日	大田区子ども家庭支援センター（キッズな大森）		品川	6	10	15	11	42
11月19日	稲城市地域振興プラザ4階		多摩	0	2	21	4	27
11月20日	男女平等参画センター・リーブラ		センター	1	20	13	89	123
11月22日	神田さくら館7階研修室		センター	2	9	9	12	32
11月24日	立川市市民会館アミュ-たちかわ第一会議室		立川	3	10	2	4	19
11月24日	小金井市役所第二庁舎8階801会議室		小平	4	0	5	11	20
11月25日	東村山市役所市民センター		小平	6	2	3	8	19
11月26日	品川区立荏原文化センターレクリエーションホール		品川	2	14	29	11	56
11月26日	あんさんぶる荻窪		杉並	4	10	0	16	30
11月26日	国分寺Lホール		小平	6	2	1	20	29
11月28日	台東区生涯学習センター		センター	0	6	15	36	57
11月28日	青梅市役所2階会議室		立川	5	15	17	8	45
11月30日	練馬区役所 地下1階多目的ホール		センター	3	16	20	20	59
12月2日	神南分庁舎 3階 会議室		センター	2	6	2	14	24
12月8日	タワーホール船堀 4階研修室		墨田	5	18	43	12	78
合 計				190	490	503	963	2,146

平成 23 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	7/21 多摩	9/27 文京	9/29 東大和	10/7 瑞穂	10/8 板橋	10/9 荒川	10/13 墨田	10/13 清瀬	10/13 調布	10/14 西東京	10/15 福生	10/15 世田谷	10/18 武蔵村山	10/20 日野	10/21 小平	10/22 北	10/22 狛江	10/23 中央
年齢 ~ 20 代	0	0	0	0	1	1	1	0	6	0	0	23	1	6	4	6	2	6
30 代	1	3	0	0	1	1	1	5	4	1	1	3	2	2	1	2	1	0
40 代	4	13	1	0	4	6	5	7	2	1	3	12	6	6	2	7	7	2
50 代	4	7	1	1	7	9	7	7	4	3	1	14	5	8	6	10	8	3
60 代~	1	16	2	5	7	13	3	6	1	7	4	14	8	9	3	9	5	8
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0
性別 男性	0	12	2	5	5	2	3	4	2	0	4	4	3	5	2	5	9	2
女性	10	26	2	1	15	28	14	21	14	12	5	59	19	23	13	28	14	16
不明・無回答	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	3	1	3	1	1
所属 一般	10	4	2	1	9	4	8	14	4	1	2	11	9	7	4	18	4	7
民生児童委員	0	16	1	5	6	10	2	2	0	9	4	21	8	1	3	1	5	4
主任児童委員	0	3	0	0	0	7	0	2	0	1	0	0	2	5	2	0	2	0
養育家庭	0	1	0	0	0	1	1	1	2	0	1	4	0	5	0	0	5	0
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都職員	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0
区市町村職員	0	11	0	0	2	1	1	3	5	1	2	6	2	2	2	5	1	0
学生	0	0	0	0	1	1	0	0	5	0	0	20	0	3	2	3	2	7
その他	0	1	1	0	2	4	4	2	1	0	0	4	0	6	3	5	2	0
不明・無回答	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	3	2	1
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	3	7	2	3	6	9	1	0	4	3	2	9	7	7	3	12	7	6
都報で	0	4	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	2	0
ポスターで	0	2	0	1	1	2	0	0	0	0	0	4	3	2	3	3	4	1
チラシで	0	8	2	2	2	8	2	3	5	2	4	25	6	10	8	2	10	5
インターネットで	1	1	0	0	1	2	0	5	1	2	2	4	1	1	1	4	1	0
知人に勧められて	1	3	0	0	2	3	5	6	1	0	2	8	1	2	0	14	1	4
過去に参加	4	6	0	2	1	5	4	7	1	2	1	12	4	6	1	2	4	0
問い合わせた	0	1	0	0	1	3	1	0	0	0	0	25	0	0	0	0	2	0
その他	4	14	0	0	4	5	4	2	5	4	1	25	3	8	2	7	1	5
不明・無回答	0	3	0	0	1	1	3	0	1	0	0	3	0	1	0	2	1	0
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと思っていたから	0	1	0	1	3	0	0	0	0	0	1	4	1	2	0	2	2	0
養育家庭制度に興味・関心があつたから	3	10	2	0	11	8	4	12	8	3	3	25	7	8	7	16	8	6
子育てに関わる話が聞けると思ったから	6	7	1	2	1	11	5	8	2	4	5	11	10	11	4	15	7	1
仕事や学問などの参考にするため	3	14	2	3	0	6	7	7	9	2	5	36	11	13	8	7	8	11
その他	4	12	5	1	0	4	4	2	2	2	1	9	1	3	1	0	1	2
不明・無回答	0	3	0	0	2	1	1	0	0	1	0	2	0	2	0	2	3	0
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	9	20	3	5	11	9	13	19	10	7	6	46	15	22	5	13	14	10
良かった	1	14	1	1	8	16	3	5	3	3	2	17	5	6	8	18	8	6
普通	0	2	0	0	1	0	0	1	3	0	0	1	0	1	1	2	0	2
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
不明・無回答	0	3	0	0	0	5	1	0	1	2	1	3	2	2	2	2	2	1
感想	9	13	3	4	12	10	13	14	10	8	5	34	2	21	6	24	12	9
アンケート回答	10	39	4	6	20	30	17	25	17	12	9	67	22	31	16	36	24	19
参加者総数	19	55	9	16	30	53	20	28	35	19	20	110	42	54	24	38	25	35

平成 23 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/24 三鷹	10/24 町田	10/27 昭島	11/7 あきる野	11/7 八王子	11/7 足立	11/8 新宿	11/8 府中	11/10 豊島	11/10 国立	11/10 東久留米	11/11 武蔵野	11/12 江東	11/12 目黒	11/15 奥多摩	11/17 羽村	11/18 中野	11/18 葛飾
年齢 ~ 20 代	0	13	1	1	25	0	11	0	8	1	0	4	0	2	0	0	1	1
30 代	4	5	1	4	19	3	1	1	1	0	2	2	2	4	2	1	4	2
40 代	7	12	1	8	18	6	0	1	10	1	2	2	3	3	2	4	2	9
50 代	6	13	6	3	24	4	13	3	13	2	0	3	2	5	5	6	1	5
60 代~	5	13	6	5	10	6	22	11	26	2	2	3	1	4	7	4	1	4
不明・無回答	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
性別 男性	2	11	2	2	25	2	4	2	4	1	0	2	1	4	3	1	2	4
女性	18	42	13	16	71	17	44	14	52	4	6	12	7	14	12	14	7	17
不明・無回答	4	3	0	3	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0
所属 一般	6	6	3	9	25	2	5	1	4	5	3	3	4	4	3	2	6	9
民生児童委員	3	11	9	3	2	2	20	15	33	0	1	2	0	1	6	5	0	3
主任児童委員	0	6	1	3	3	1	8	0	6	0	0	1	0	6	0	2	0	1
養育家庭	1	1	1	2	6	7	0	0	0	0	2	0	4	0	0	1	0	5
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
都職員	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0
区市町村職員	10	15	0	0	21	1	2	0	2	0	0	0	0	1	1	2	0	0
学生	0	6	0	1	30	1	9	0	8	0	0	2	0	0	0	0	1	1
その他	3	10	0	2	6	5	3	0	1	1	0	3	0	0	4	2	2	2
不明・無回答	0	1	0	1	0	0	1	0	4	0	0	3	0	3	0	1	1	0
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	9	11	3	6	19	2	9	2	17	2	1	4	4	3	7	5	3	4
都報で	0	1	3	3	4	1	0	0	4	0	1	1	0	1	0	0	2	1
ポスターで	1	0	0	1	2	0	1	1	2	0	1	0	0	2	0	2	3	1
チラシで	5	16	6	11	18	7	11	3	13	2	3	7	2	5	6	5	2	7
インターネットで	2	2	0	1	5	1	2	1	4	2	2	1	0	4	0	1	1	1
知人に勧められて	2	2	0	0	5	1	4	1	6	0	1	1	0	2	4	0	0	4
過去に参加	2	8	2	5	1	4	8	1	9	0	2	0	2	4	1	4	1	2
問い合わせた	1	2	1	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0
その他	1	19	3	3	44	3	19	10	18	0	1	0	1	3	0	0	0	5
不明・無回答	2	3	0	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと思っていたから	3	6	4	2	7	4	3	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	4
養育家庭制度に興味・関心があつたから	3	22	7	10	19	5	13	5	37	2	3	7	5	9	6	5	4	8
子育てに関わる話が聞けると思ったから	7	15	5	6	23	4	12	6	6	3	2	5	3	8	6	3	6	6
仕事や学問などの参考にするため	6	29	2	4	53	1	17	4	17	2	0	2	0	5	3	3	0	6
その他	3	6	1	2	14	4	4	2	3	0	2	0	5	1	1	1	0	3
不明・無回答	2	1	1	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	10	27	7	17	78	8	23	10	37	3	5	13	6	11	11	10	6	19
良かった	11	23	6	4	12	6	21	4	15	3	1	1	2	6	2	4	3	1
普通	0	2	1	0	2	1	2	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0
あまり良くなかった	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	3	3	1	0	3	4	2	2	5	0	0	0	0	0	1	1	1	1
感想	9	31	11	15	53	15	11	13	28	2	3	13	6	10	6	10	7	18
アンケート回答	24	56	15	21	96	19	48	16	58	6	6	14	8	18	16	15	10	21
参加者総数	45	118	21	35	145	34	80	31	108	17	12	31	21	30	27	29	26	44

平成 23 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/19	11/19	11/20	11/22	11/24	11/24	11/25	11/26	11/26	11/26	11/28	11/28	11/30	12/2	12/8	総計	参考	
	大田	稲城	港	千代田	立川	小金井	東村山	品川	杉並	国分寺	台東	青梅	練馬	渋谷	江戸川		22年度	21年度
年齢 ～20代	2	1	21	3	2	4	2	1	1	4	2	2	2	4	7	183	209	167
30代	2	1	11	2	1	0	0	0	3	1	0	2	4	3	0	117	173	144
40代	5	0	5	5	2	3	3	7	10	9	3	2	6	1	8	248	277	247
50代	5	8	5	2	2	5	2	13	2	4	5	3	11	1	15	302	274	281
60代～	11	13	11	6	3	1	4	20	3	2	38	11	13	4	37	430	378	409
不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	12	18	23
性別 男性	5	2	19	2	3	2	1	8	5	5	12	8	0	2	16	231	235	206
女性	20	21	34	16	7	11	10	29	12	14	36	12	35	11	48	1,016	1058	1018
不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	4	2	1	3	0	1	0	3	45	36	47
所属 一般	7	4	20	2	3	3	5	6	12	14	9	5	12	5	3	329	466	363
民生児童委員	8	12	7	5	3	0	0	19	0	0	14	10	6	0	39	337	254	325
主任児童委員	3	3	0	0	0	4	3	10	0	0	0	0	6	2	4	97	70	66
養育家庭	1	0	0	0	1	1	1	2	1	2	0	2	1	0	2	65	68	57
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	11	5
都職員	0	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	25	36	32
区市町村職員	0	0	3	2	0	0	0	2	0	1	11	0	0	0	7	125	98	121
学生	2	1	18	1	0	4	0	1	1	2	3	2	2	3	6	149	163	138
その他	4	2	5	7	1	1	1	1	0	1	9	1	2	3	4	121	128	135
不明・無回答	1	0	0	1	1	0	0	0	3	0	5	0	7	0	0	43	35	29
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	5	10	9	2	4	2	3	12	4	4	10	9	19	3	16	314	320	341
都報で	0	3	2	0	0	1	0	0	0	1	3	1	0	0	0	52	84	104
ポスターで	1	2	6	1	1	5	0	1	0	1	3	1	1	1	1	68	86	52
チラシで	11	2	13	8	6	1	6	7	3	4	13	5	4	3	15	334	315	299
インターネットで	0	1	3	3	1	1	2	3	4	6	1	1	5	2	2	92	74	58
知人に勧められて	1	5	15	1	1	2	0	2	0	4	12	2	4	0	1	136	160	107
過去に参加	4	2	2	3	1	2	2	7	0	4	10	5	2	0	13	175	191	204
問い合わせた	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	52	32	24
その他	10	6	11	3	0	2	3	17	3	2	0	2	5	3	18	309	298	308
不明・無回答	1	2	1	1	1	0	1	3	5	0	0	1	0	0	0	46	43	47
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと思っていたから	3	0	1	1	1	1	3	2	2	1	2	3	0	0	2	78	132	81
養育家庭制度に興味・関心があつたから	13	12	14	9	6	6	3	18	10	12	17	7	14	8	17	477	505	514
子育てに関わる話が聞けると思ったから	9	4	20	5	4	1	2	14	2	5	18	3	21	4	19	368	330	354
仕事や学問などの参考にするため	3	5	22	4	2	4	1	10	4	4	11	5	3	5	11	400	390	425
その他	0	1	6	0	0	2	3	0	0	1	13	3	0	1	5	141	152	134
不明・無回答	4	1	2	0	0	0	0	3	1	0	0	3	3	0	0	49	45	47
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	14	11	34	8	9	9	7	20	10	16	28	8	10	8	42	772	789	688
良かった	4	6	10	10	1	0	3	17	5	3	13	7	17	2	18	366	391	407
普通	0	3	4	0	0	0	0	1	1	0	2	1	3	0	1	42	46	50
あまり良くなかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	6
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1
不明・無回答	7	3	5	0	0	4	1	3	3	1	8	4	6	3	6	108	97	119
感想	21	13	27	11	7	9	7	25	13	0	29	10	14	7	41	704	644	659
アンケート回答	26	23	53	18	10	13	11	41	19	20	51	20	36	13	67	1,292	1,329	1,271
参加者総数	42	27	123	32	19	20	19	56	30	29	57	45	59	24	78	2,146	2,106	2,054

**養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのでき
ない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生
活し、養育していただく里親制度です。**

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格は？

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。
配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、
養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ どのような子供を預かるの？

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おむね 18 歳までの子供です。

★ 預かる期間は？

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

★ 養育に係る費用は？

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。
- ほっとファミリー同士が集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親係

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

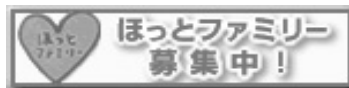
電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



こちらのホームページもご覧下さい。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



養育家庭体験発表集
平成24年9月発行

登録番号(24)134

発行 東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿2-8-1
電話03(5320)4135 FAX03(5388)1406
印刷所 東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西2-22-26
電話03(3762)7611